愛國婦人

毎月二回 五日廿日發行
發行所 東京麹町區(牛ヶ淵公園) 愛國婦人發行所
編輯兼發行人 山澤俊夫
印刷人 永持德一

定價一部金參錢五厘 一ヶ月金七錢 半年分四拾貳錢 全國郵送料
廣告料一行六拾錢
本誌全部禁轉載

社説

信用

諺に「人を見たらば泥坊と思へ」とあり。生馬の目をぬく世の中、油斷もすきもならざれども、さりとて、人々、互に泥坊と心得て、つきあひ居りては、社會は成り立つものにあらず。互に氣をゆるして、頼み頼まるゝものあればこそ、世は渡らるるなれ。さらずば、片時も心配にて、命はとても續かざるべし。生命、財産の安全ならざる野蠻人にても、仲間といふものありて、互に氣をゆるして生活し居るなり。即ち野蠻の生活にも、或る度までは信用は、入用なるものなり。況んや文明の生活をや。文明の生活とは、信用を土臺とせる生活のことにして、文明の度合は、信用の度合にて測らるゝといふも、過言にあらざるなり。

信用とは何ぞや

信用とは、當てになることなり。頼み甲斐あることなり。嘘のなきことなり。安心出來ることなり。約束通りに行ひて、間違なきことなり。この信用は、大は國家より小は個人に至るまで、生存上必ず無くては叶はぬものなり。國が結んだ條約を履行せず、借りた金を返さざれば、その國は信用できぬ國にて、世界の仲間外れとなり、遂には列國より酷い目に遇はされ、或は滅亡するに至るべし。商賣の取引などにも、信用が第一にて、信用なければ、人は相手にせぬものなり。壹圓以上の品をたゞにて渡されざる人間は壹圓以上の信用なき人間なり。幾らにても渡さるゝ人間は、金で測られぬほどの信用を有する人なり。個人の生活にも、信用は毎日入り通しにて、例へば、米屋が米を置き、八百屋が八百物を置き、薪屋、醤油屋が、薪炭、酢、醤油を置いて行くといふも、月末には、勘定を拂ひくるゝとの信用あればなり。もし月末になりても拂はず、二月三月立ちても與れざれば、現金の外、何も置かざるやうなるべく、置くものは、質ばかりとなるべし。即ち斯る家庭は、信用なき家庭にて、つまりは、妻の不名譽なり。

夫の信用

妻の役目は色々あれども、夫と家庭の信用を保ち且これを高むることは、その大切なる役目なり。夫の信用は、夫自らこれを維持すべきは勿論なれども、妻もまたこれを助けざるべからず。夫をして勇んで毎日の業務に從はしむる事は、大に妻の慰めと勵ましとの力に由るものなり。夫が一日仕事して、疲れて歸り來れば、留守も遊んでは居らぬらしく、何もよく片づき整ひて、茶は乾度わかしあり、何から何まで物も出來居りて、笑顔を以って妻が待受け、あしらふより、晝の疲れも忘れ、明日の仕事にはづみがつきて、某は仕事に忠實なり、精勤者なりと、見出されて出世も早く、家計にも無理ができずして、つまり一家が信用を得ることゝなるなり。これをその反對に、妻の心得あしく、夫に勇氣と慰安とを與ふることは、さておき、着物や帶をねだり、物見遊山をせがみて、買ふてくれず、連れて行つてくれぬとて、ふくれ面をして居るやうなことにては、夫の仕事に屈託を生ぜしめ、暮らしに無理ができて、借金をし、世間に顔出しが出來ぬやうなるものなり。妻に締りがなく、内が亂れ居りては、よしや夫が人に相談をかけても、あそこは、妻君があれだから、駄目だわなど、止める者もありて、乘つてくれず。かゝる夫の不信用は、全く妻の御蔭にて、その例は、世間に乏しからず。某は、立派な人間だが、惜しいことには、家内があれだから、氣の毒なものだと、妻のために浮ぶ瀬のなき夫の少からざるこそ、殘念なれ。されば夫の信用不信用の半分は、妻が背負つて立つといふも、過言にあらず。論より證據、仕上げた者の妻は、十が十までしつかり者にて、やり損ひ者は、果して妻がやり損はしさうな人間なり。

家族相互の信用

以上は、内と外との關係に於て、信用の大切なることを述べたるなるが、家の内にても、家族相互の信用は、同じく大切なるものなり。姑が嫁を信用せず、嫁が姑を信用せざれば、邪推、疑惧行はれて、とても睦まじく行くものにあらず。夫が信用せざる妻、妻が信用せざる夫の、共に家にあるは、名は夫婦なるも、實は他人の寄り合にて、内證、隱し立てありては幸福なる生活は出來ざるものなり。子の信用せざる親、親の信用せざる子は、親たるの値打なく、やくざ息子に極まれり。信用出來ざる人の居る家族は、眞の家族にあらず、家庭の幸福は、到底望まれざるものと知るべし。

信用は大切

要するに、信用は人間の生活に必要缺くべからざるものにして、男子と同じく婦人にも大切なり。されば何人を問はず、皆自重して、他の信用を得るやう努めざるべからず。

當代百美麗(十)

△おさらひ　山田文子筆

新懸賞

つれ〲の雨、物憂さの雨、肩の張る眞面目なことは何人も可厭のことゝ思ひますそこて、左の新懸賞題を提出すことに致しました。

一、こはてたあ
二、らかにつま

以上假名五文字づゝのが二題ありますがこの假名の順序を種々に變更して、面白い文句を作つて御覽下さい。尤とも二題を一緒にし、又た濁音を振つても宜しいのです。賞品は新刊の「女德論叢」。用紙は端書――締切は七月三十一日。宛名は必ず「東京麹町九段坂下牛ヶ淵公園愛國婦人發行所」と認めて下さい。

發行所 東京麹町區牛ヶ淵公園 愛國婦人發行所△振替貯金口座番號第壹壹千八壹番●電話番町五二〇・一七四五番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

守分論

統計事務官　吳文聰

「上見れば及ばぬことぞ多かりき、笠きて暮らせ己が心に」とは、我等が幼年の頃、父母に敎へられたる訓戒なり。蓋し封建の世にありて向上心盛んなれば自ら其分に過ぎたる事を望み、其分に安んずるを得ずして種々の方面に非望を企て、終に國家社會の罪人となる恐あるが爲め其子弟を斯く戒めしは有難き心なり。

今や國家隆興の期に當り、何れの方面として發展の餘地なきは無く、各人才略に應じ他人に凌駕するの方略を按出し、政治に學藝に農業に工業に商業に、以て他人の爲し能はざる所を爲し、他人の致す能はざる所を致し、他人の爲し能はざる大業を成し、直接には一身一家の富貴尊榮を博し、間接には國家の富强を資く名譽高榮何ぞ之に加へん。

抑も今日の國家は昔日の國家に非ず、昔日の國家は一日の安寧を得るを目的とせしの故に、士民分に安んじ上下一日安寧ならば其目的既に足れるものなり。今や然らず。列國海の東西に競ひ安逸を貪ること一日ならば、列國其虛に乘じ他を凌轢せんとす。是れ獨り軍事のみにあらず、平和の競爭に於けるも亦然るなり。

今や列國の互に競爭するは恰も商賈の互に相競ふに異ならず。此時に當り我國をして世界列國の優勝者たらしめんと欲せば、國人をして其向上心を强盛ならしめ、獨り國内同胞の競爭に止まらしめず、驅て之をして世界の競爭場裏に馳驅せしめざる可らず。焉ぞ其心に笠を被らしめ其向上心を抑壓するが如きを是れ用ゐんや。

以上述ぶる所の意見は決して謬れる所なしと信ず。然れども事物には表裏あり、利害あり、必ずしも一概に論決し難し。請ふ暫く耳を他の方面に借されんことを。輓近文明日に進み工藝日に巧みにして、人生々活の方法漸く其極に達し飽衣暖食出づるに輕車あり、居るに巨室を備へ、暗きに瓦斯電燈あり、寒きに煖爐煖室法備り、加ふるに夏至れば暑を海濱に避くる十數里、冬至れば寒さを暖地に避くる數百里。其衣に寶石を飾り、其裝に錦繡を施し互に華美を戰はせ豪奢を競ひ、日毎に演戯を催ふし夜毎に舞踏に臨み是を以て上流社會者若しくは富者に缺くべからざるの交際と爲し、只管及ばざるを是れ恐る。是れ尙ほ可なり。然れども此華奢豪放の裏面には暗に社會衰亡廢滅の兆候あり。請ふ少しく之を說かしめよ。

右の如く人の向上心は畢竟進取の氣性を皷舞する者なるが故に、此心の文明の進歩、人類の開進に必要なるは素より論なく人類生活の歲月を經るに從ひ次第に古昔野蠻の境遇を去るは極めて慶事にして甚だ貴むべしと雖も、凡そ天地間の事物には皆夫々次第秩序ありて、此次第秩序を踏み誤れば忽ち顚覆の危險に遭遇する數の免れざる所なり。然るに右向上心壓抑の敎一たび撤せられてより、否却て文明進取、冒險等の名の下に認許獎勵せられてより、男女貴賤と都市僻陬とを問はず、沿々たる世間皆其分を守り若しくは其分に安ずるを以て因循姑息と呼び迂愚にして世の進歩に伴はずと爲し、人人競ふて分以上の生活を試みんと欲し、而かも其進歩着實堅固ならず、秩序段階を超越して其上流に倣はんとす。於是乎家として窮乏を告げざるはなく人として煩悶を感ぜざるはなし。中等若くは中等以下の妻子の外出するを見よ。何處の大家の奥方なるか令孃なるかと思はるゝほどなるに就て其實際を糺せば一日僅々數十錢乃至數圓を贏ち得る小商家の妻子なりと云ふ。是れ即ち眞に其分を知らざる者の爲す所なり。然れども是れ一二の例にあらず、東京を始め各都市到る所、皆な斯の如きのみ。今や此趨勢は延て農村に及ばんとす。是れ國家の危機にあらずして何ぞや。

今や國家は戰役の後を受け國債數十億圓に上り國民擧つて節儉を守るも尙之が償却に困まんとす。然るに國民遊樂奢侈を以て自ら許し、商賈は自利の爲め奢侈品を流行せしめんと欲し寶石を飾れる衣服の流行を吹聽して婦女を惑さんとし淺慮の徒は又其利害を慮らずして其計に陷らんとす。若し夫れ斯くの如き驕奢にして一たび上流社會に行はれんか社會末流の者皆顰を迎へて之れに倣はんとす。實玉の貴素より中流者の能く得る所にあらざるべし。然れども此心已に人を罪惡に導くの端なり。恐るべく戒むべきは此にありとす。

此に驕奢と云ふ事に就き一言すべし。奢侈とは美酒嘉肴の謂にあらず。一瓶數十圓の葡萄酒を傾け、一皿數圓の良肉を食ふも、王公に在て何かあらん。大理の屋、錦繡の壁、富豪に於て何かあらん。畢竟驕奢とは其分に過ぎたるを云ふなり。故に甲人には驕奢ならざる物も、乙人には驕奢なり、丙者には驕奢ならずして、丁者には驕奢なるあり。中等社會の婦人に於ける珊瑚の根掛は敢て驕奢を以て目すべからざれども一ヶ月二三圓の下婢にして之を購へば驕奢の沙汰にあらずとせず。去れば歐米の先進國にて其衣裳に寶玉を飾り其沓に錦繡を裝ふも決して驕奢と云ふべからざらん。然れども我が國の如き未だ富實ならざる後進國にして其分を守らず直ちに歐米の例に倣はゞ頓て倒産の危機に接せざるを得ず。況んや歐米の各國と雖も是等驕奢の爲に社會の裏面は漸く頽廢し日を逐ふて腐敗墮落の境に陷りつゝあるをや。

然らば之を救濟するの道如何。曰く他しな、各自分を守るに在り。

贈物に就いて

村海生

贈物をする事に就いては、極めて細心の注意を要する事であります。其時と場合と長上と友人とによりて、各々異る處がなからねばならないのであります。若し不注意にして其事をあやまるやうな事がありまして、思はざるわざはひが、自己の身にふりかゝり、交友は斷絕して長上には再び面を向くる事の出來ないやうな事情に立ち至る事がないとも限りません。殆ど自ら求めてわざはひを買ふやうな事となるのであります。

およそ贈物をする場合は色々ありますが、慶事の場合、即ち婚姻を祝するとか出産を祝ふとか、それから凶事の場合、他が天災事變に遭遇したりとか、死を弔ふとか、其他病氣見舞、旅行の餞等、一々擧げてお話する事も出來ない程でありますが、とにかくすべて儀式だつた事には、其贈物の種類も、習慣上おほよそ一定したところがありまして、此等はもとより當然の事として敢へて異儀を申す理でもありませんが、しかも餘りに型にはめたやうな同種類の者で、變化も趣味もなきものは、贈られたる者はさ程に有りがたくも感じないのでありませう。

さてその贈物と云ふものは、交際上の修飾物であります。決して虛飾物ではありません。修飾と云ふは人類生存に就いて須臾も必要缺くべからざるものでありまして、此を虛飾と同一視してはいけません。虛飾は識者の目に映ずる時にはすべて醜の醜なるものでありまして、宗敎家が切に戒しむるところの僞善に過ぎないのであります。それで贈物の性質は如何なる場合でも修飾物として、眞實なる心のこもれるものでなからねばならぬ事は勿論でありませう。

凡そ交際の直接の目的は相互に相親しむ事であります。見聞を廣め、智德を養ふと云ふやうな事は、間接の目的でありまして、交際より得るところの餘德と云ふべきもので、交際そのものは、たゞ相互に相親しめば、それにて目的は達せりと云ふべきでありませう。しかし茲に注意すべき事は、人相親めば、必ず慣ると云ふ事であります。慣るれば遂に相爭ふと云ふ事になる、支那の聖者も此を戒しめて、樂んで淫せずと云はれましたが、實に尊い言葉でありませんか。それで此相親しむとともに如何なる場合でも忘れてならぬ事は、敬する事と愛する事であります。實に敬愛の情は、交際上の純潔なる精神でありまして、此精神をもつて贈物するに至つて、其贈物は眞に交際上の修飾物たる事を得ると信ずるのであります。

それで敬愛の眞意と云ふ事は、決して自分の事を思はず、他のためでなからねばならぬのであります。即ち敬愛の眞意をもつて贈物をする場合には、そのものは他の迷惑にならぬやうな、且つ不利益ならぬやう注意する事を要するのであります。たとへば酒飮まぬ人に、麥酒を贈るが如き、胃病にて惱める人に餅菓子を贈るか如き、甚だ不都合なる仕打と云はなければなりません。若し頑固な親爺で、「折角の御親切ではありますが、酒は禁じてゐますから」とて、衝き返へされるやうな事がありましては、其不面目はどんなでありませう。要は、先方にとりて最も便利なる、最も有益なるものを贈るか、もしくは最も高尙なるもの、最も嗜好に適するものを贈るべきであります。

例へば菓子一折を贈らうより鰹節一本を贈つた方か家庭にとつては至極便利で、絹ハンカーチフを贈らうより金一圓を贈つた方が便利此上もなからうと思ふのであります。（金錢を贈る事には予宿論あり他日を期すべし）。家政のひまひまに、自ら編める子供のよだれかけ、脊戸の畑より採りたる野菜、此等は贈物として極めて上品たるしわざと信ずるのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

露の榮（二）

村山貞子

　環は某縣の有名な商家の娘であつた。父は外見俠客を粧ふて家の事などは少しも關係はず、家族の者にやさしい言葉などをかけるのを恥の樣に思つて、家に居れば常にがなり通して、子供達は可怖い者の第一と餘り傍へも行かなかつた。氣丈な母は父が町を遊び廻つて居る留守を萬事一人で切盛して居た、奉公人などは勿論父の留守の方を喜んで居た。兄が三人あつて環は末の一人娘といふので、母にはどんなに可愛く思はれたか知れない。

　環が育つ頃には父の放埒が烈くなつて家はそろ〳〵ぐらつき初めた、內心小心の父は愈々自暴になつて了つた。然し母は東京に勉强に出してあつた長男の龍夫の歸る迄は、必ず持ち怺へて立派に土地を引拂ふ決心をした。

　父は長男を招び返して了ふといふ。然し母は兄の商家に不向なのを知つて居るので、是は餘程商賣氣のある三ッ違の二男の卓二と相談をして、龍夫に心配なく勉强を續けさせた。此間にも環と四ッ上の小い兄の健三とは萬事裕に育てられて子供心には誰に比べても自分の家が一番豪い樣に思はれた皆母の情である。父は終に母危篤といふ無根の事件で龍夫を招び返した。環と健三とは兄の不意の歸國を喜んだ。

　其夜父は有繫に氣耻かしかつたか、外泊した。留守の間を、母と龍夫と卓二とは終に最後の相談を初めた。

　父があゝいふ風では末の二人の敎育が覺束ないし、自分もだん〳〵老つては行く、二人が乾りしてくれないでは困る、龍夫が此處に止まつた處で家の爲めにもならずといつて身の爲めにもならず、それよりも一ッ奮發して西洋へ行つて來ては奈何か、未だ生家に預けてある母の土地を賣り拂つたら、旅費位は何とかなるだらう、後の學資は又何とか乾度心配をするから一層然うしてくれないか、二男は橫濱にでも出て商館に入つて見たらよからう。留守はどうしても蹈み怺へる。と母は言つた。二男は兄の外國行には大に贊成した。然し如何に氣丈な母とはいひながら、あんな父を戴き、足手纏ひの子供二人を抱えて、內實大に苦しい此大店を二十人からの雇人を使つて繰廻さうといふのは聊か心懸であるから自分も母と共に此店をしよつきつて兄の歸朝迄には必ず挽回して見せる、又夫が自分の修業と思ふからといつた。

　龍夫は弟の言葉を聽いて自分は實に不甲斐ない樣に思つた。然し商家に不適當な自分は二人の云ふ通りにしやうと決心した。

　翌日二人は伯父に逢つて事情を打ちあけると、その伯父は解つた人で、自ら進んで出金しやうといふ。勿論土地に手をつけさせなかつた。母は其後折を見て郡長の家を訪ふて、父を說く事を賴んだ、此人は龍夫を東京に出す時にも自分が云ひ出した位なので今の話は土地の名譽として喜んだ。父も此人には一言もないので、龍夫を父の留守に出發させるとにして母は歸つた。

　十日ばかり經つと父は親類の婚禮に招ばれて、二三日泊りがけに出かけた。人目を忍んだ親子は盡きぬ別れを心に交はして、弟は兄を送つて停車場に行つた、其所には伯父が待つて居た。

「龍夫御苦勞だな、後の事に氣が取られるやうな事ではならないぞ、御母さんの手で出來ない事は俺が何樣でもするし、學資の事も心配は入らないよ、詰らない心配するより些と身體を大事にして勉强するのが一番だ、あの御母さんの心持では此樣時には花々しくもし度かつたらうし、緩り話もしたかつたらうが歸つて來た時にはどんなにでもして喜ばせろ、なあに御父さんだつて郡長さんが引き受けてくれたのだから安心して居な、卓二もえらい奮發だ、役にも立つまいが思案に餘つた時には何時でも來な「あ龍や是は餘り少いが家から何も持つては行けまいし、どうせ東京で揃へるのだらうから、俺の志だ靴の一足も買つてくれ。」と紙包を出した、龍夫は伯父の情を有難く納めて、

「伯父樣種々御心配をかけまして、又其上に此樣事をして頂いては恐れ入ます、後の事も何分宜しく願ひます、卓二御母さんにさう申してくれな、御前も身體を大事にして御母さんや弟妹に氣をつけてな。」

「兄さんそれでは御機嫌よく、後の事は伯父さんや郡長さんも入つしやるから心配しないで下さい、船の度には急がしくも手紙を下さい夫が何より樂です、」

「あゝもう何もいふな卓、いへば夫だけ兄さんが心配する、それ汽車が來た」

　龍夫は幾度も伯父や弟に挨拶して車にのつた、丁度其處に郡長は車から飛び降りて柵內へ馳け込んだ、車掌は笛を口にあてたが驛長の注意に暫時待つた、

「龍坊か、昨日もいつたが父さんの事は心配は要らない、御前一人の名譽ぢやない、町內中の譽だぞ、立派になつて歸つて來てくれ、是は本の御印だよ。」と又何やら車內に投り込んで一足引くと笛は鳴つた、龍夫は重なる禮も思ふ樣に日はず車から伸上つて、見送る三人を見返つた。車は黑煙を吐いて發車した。龍夫は寂しい出發をした。

　翌日歸つた父は待ち合して居た郡長から龍夫の出發を聞いて怒れもせずに苦笑して濟んだ。

　龍夫は東京から長い手紙を書いて不孝の罪を詫びた。旅行免狀も容易に取り得た彼は國を立つ時とはちがつて、友人達の見送を受けて目出度出發した。

　龍夫が上陸してから四月になる。一度無事に上陸したといふ手紙が來た切何の便もないので、若しや病氣にでも罹つたのではあるまいかと心配をして居ると、

　龍夫の友人から手紙が來た。

　龍夫が寥しく船中に居ると、偶然にも漫遊から歸る米國の有名な大學の敎師に見出されて、覺束ない英國で身の上を語ると、非常に同情を寄せて、終に其所に寄食して二ヶ月間絕えず勉强した結果、その大學の試驗に首尾よく合格した。尤も餘り過度に勉强し爲めに腦を痛めて居た時に、試驗の成績を知つた彼は喜びの極精神に異狀を起して自殺を企てた。然し彼の身體を氣づかつた敎師の夫人は、牛乳を持つて行くと、今剃刀を持つて居た處なので、ソッと側のテイブル掛をかけ彼の手を押へた。彼は生氣に歸つて母や弟の事を思ひ起して夫人の恩を謝した、幸に今は無事靜養中で、此處二週間も經てば全快するだらうから心配ない樣に、龍夫君は試驗の成績丈早く知らし度いといふので僕に此手紙を托した、龍夫君の事は此地では新聞にまで出て非常な評判であるから、もしも內地へ誤つて自殺でもしたやうに傳はつたら却て心配だらうと思つて、先生からの言ひつけて此手紙を送る。先生からは宜しく申上る樣に、龍夫君の事は萬事引受けたから安心するやうに。とのことであつた。

　母も卓二も嬉しさに泣き伏した。父も有繫に嬉しかつたか、「俺の目がちがつた」と誚つて手紙を持つて出かけた、郡長の家に行つたのであつた、小僧は伯父の家に走つた。

　全快後兄は其所の青年會の幹事となつて、後進に語學を敎へて學資丈は得る事になつた、然し伯父は絕えず送金をしたので、母へ小遣になど〻送つてよこす事も度々あつた、母は泣いて喜んだ。

子爵清浦奎吾閣下有効證明
完全無缺　素人自宅用
電氣治療器械
腦病脊髓病神經衰弱生殖器衰弱（陰萎遺精發育不全）慢性子宮諸病全身虛弱胃腸病神經痲痺神經痛リウマチス脚氣等を根治す

東京神田區一ツ橋通町　東京電氣治療法研究會
大阪市北久太郎町心濟橋筋南入　大坂販賣店
說明書類及販賣規則は御申込次第無料送呈す

最新正式
素人用營業用　電氣美顏術用電氣ローラー發賣
本器は精巧優美にして簡單輕便、靈効顯著にして堅牢廉價比類なし●本器を用ふれば何人も皆立處に美人となる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭醫術

慢性乳房炎

大野病院院長醫學士　三原新太郎

今度は慢性の炎症に就きまして御話いたします。この前は急性の炎症に就きまして御話を申したのでしたが、今日御話申す慢性の乳房炎症と云ふのは、只お若い方計りでなく、老年の御婦人方にもあるので御座います。併し一番多數のは――乳を飲ませる御婦人て授乳期の婦人に一番多いのである。

て、どう云ふ風に症候が有かと申すと、先づ乳房を壓へて見ると、固いものが乳房の彼方此方に出て夫れを壓へても痛む又壓へなくも痛む。そして漸々乳房全體が大きくなると云ふことがあります。併し或時はその塊が出來ないこともありますが、大概鳩の玉子の大さ位になります。

最初は固いが後では軟くなり、だんだん皮膚が赤くなりまして、初めは皮膚が癒着して居りませんが、後には皮膚が其固りと癒着するやうになり、終りには乳房が凸凹して來るやうになり、乳房が僅か上方に向ひ健全なものと、比較して見ると大さう上の方に持ち上つて居ります。――けれ共、乳全體を動かせば動くもので、決して下方に癒着するものではありませぬ。痛は漸次增加して來ますけれ共、腋下の腺が瘇れるやうなことはない。これは極く良性のもので、硼酸水の濕布とか、ビール氏の療法で愈すことが出來る。其他、乳房には枯核も來ますし、又カクチノミコーゼと申しまして、御承知でありませうが――近衛公爵が亡くなられたのも、此の爲めでありますが、これも又乳房の病氣となるのであります。又梅毒性の乳房炎もありますが、之等は餘り專門に渉りますから申上げますまい。それから今度は、乳房に來る新生のもの、即ち腫瘍の御話をいたします。乳房には前申しました通り、變化極りなき作用があるので――腫瘍にも色々ありますが、良性のものは別段出來ましても命には關係しないが、惡性の方は之がために生命を亡くすと云ふやうな、先づこの二種類に分けて見まするとー良性の方は比較的經過の長い又痛も少ないと云ふやうなものが多くて、惡性の方は痛も甚だしく、どん〳〵乳房が破れて行くと云ふ急性なのであります。今惡性の中で最も多く來る癌瘇――乳癌の御話をいたして、御參考までに御注意を申して置く。扨て此の癌と申ますものは、誠に都合の惡いもので、胃に出來れば、胃癌となり、御婦人方ならば子宮癌と云ふ風に、孰れも命とりであるが、幸ひ乳に出來る乳癌は早く療治をいたせば經過の善いものがある。併ながら、なか〳〵其數が多いので一番婦人方に多く來のは子宮癌、次にこの乳癌であります。併し多くは四十歲以上の人に來ると云ふのが普通であります。素人の方はこの癌はよく子供を持つた人に計り出ると思ふけれ共、不思議なことには、一人も子供を持たない人にも出來る。又先程は四十以上と申しましたが、もつと若い人にも出たと云ふ例はいくらもあります。

有功章賜りし事の畏こければ

群馬支部評議員　河西鑑子

かひもなくしるしも立たぬおのが名の
いかで雲井にあらはれにけん

終身會員の證として赤き總を賜りければ

ふさのこと赤き心を盡さばや
御國のために身は終るまで

夫婦の情

夫婦の情！　云はずもがな!!

はて、知れ切つた！　云はずもがな!!

斯う云はるゝ方があるかも知れぬ。

成る程、云はずもがなであらう！　云つて宜い程度のことは何人でも知りぬいて居るだらうし、何人にても知れ渡らぬ程な微妙な問題は、或ひは此處に述べる必要が無いかも知れぬ。

が、夫婦間の情合が、完然と出逢ふか出逢はぬかに依つて、家庭と云ふ一箇の組織に種々な影響のあることは疑ひの無いことである。

極端の一例

を此處に取れば――例へば、年百年中夫婦間の折合が甚だ好くない家庭があるとする。少し尾籠な例であるが、こゝに一例を下等社會に取り、夫婦間の喧嘩口論年中間斷なく、屢々桶が飛ぶ、德利が飛ぶ、藥罐が飛ぶと云ふ大活劇が家庭の間に演ぜられつゝあるとする。

かゝる交情の夫婦から成立つた家庭に接近した、他の家庭は果して何うであらう。否、隨分と有難からぬものであらう隨分と可厭いことであらう。それも稍や年闌けて、思慮分別のある成人ばかり住んで居る家庭ならば未だしものことであるが年の至らぬ青年男女なぞが住んで居て、斯かる醜い夫婦の有樣を見たり、口論を聞いたりしたならば、その青年男女は果して何う思ふであらう。

否、若し其の夫婦――喧嘩好きの夫婦の住んで居る家庭に子供が有つて、此の醜い夫婦間の有樣を見聞して居つたならば、何うであらう。何う云ふことになるであらう。

孟母三遷の敎

は何人も先刻御存知のことゝ思ひますが何事も見やう見眞似――かゝる獸と犬同樣な夫婦を父母とする子は、不知不識の間に果して如何なることをか見做ふてありませうか。また、見做はぬ見做ふは別問題と致しましても、不知不識の間に如何なる感情を生ずるとてありませうか。眞に可畏しいことては無いてしやうか。

西洋歷史に通じた方は御承知の彼のソクラテス。彼のソクラテスの細君は、歷史の敎ふる處に依ると非常に邪見な女、所夫に對し有るまじき擧動が仲々にあつたかに承知して居ります。しかし、ソクラテスは出來まじき程度までも忍耐したと歷史に記して居ります。

無論、如何にソクラテスの細君が險惡な女であつたにした處で、また夫婦の情合が何うあつたにした處で、ソクラテスのソクラテスたるに何等の損益もないてありませう。それにソクラテスに、子供があつたか無かつたか、その邊をば講者は存じません。が、萬一、ソクラテスに子供があつて斯る有樣を實地見聞致したならば、その子供は果して何う云ふ感情を保つてとてありませうか。

否、一家庭の裡に、單に一夫婦あるのみにして、この夫婦間の不折合のみと云ふのならば未だしもてあるが、一家庭の裡に二夫婦も三夫婦あつて、これが各自に夫婦の交情が惡く、一組づゝなら未だしも、二組も、三組も一緒にたつて醜い爭ひをつゞけるやうてあつたらば何うであらう。醜のまた醜なるものとは實に之れてありませう。

△防長遺芳
明治維新の革命の際に當り、この新天地を形爲せる回天の勳蹤が防長二州の力與つて大なるものあるは、世の之を爭はざる處。この防長遺芳は毛利公の偉勳、二州先聖の功蹟 [illegible] 一圓六十錢。[illegible]

櫻井ちか子

BEEF HASH.

Take cold beef of any kind; cut very fine; then take about one-third washed potatoes; season, and pound all together in a stone crock. Turn all into a frying-pan, and stir until it is heated through and cease stirrtng for a few minutes, and let a brown crust form on the under side; then turn out whole into a flat dish, the brown side uppermost.

Or, would the mixture into flat cakes; dip these in beaten eggs and fry in hot drippings.

ハッシユ

燒冷しの牛肉を極細かに刻み、殆んど肉の三分の一位のマッシユドポテト（馬鈴薯をよくうでてつぶしたるもの）を混ぜて、鹽胡椒て味をつけ、一處に摺鉢に入れて搗きたる後、バタを引きたる鍋の中へ入れ、混まるまて攪き交ぜたる後よく押し付けて下面の鳶色になりたる頃、鍋より取り出し、燒けたる面を上に向けて、平たき鉢に盛るのてす。又は先に搗きたるものを玉子位に丸るめて解きたる玉子の中へ一寸浸けて、煮立ちたる少しの脂にて燒いてもよいのてす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

紀行

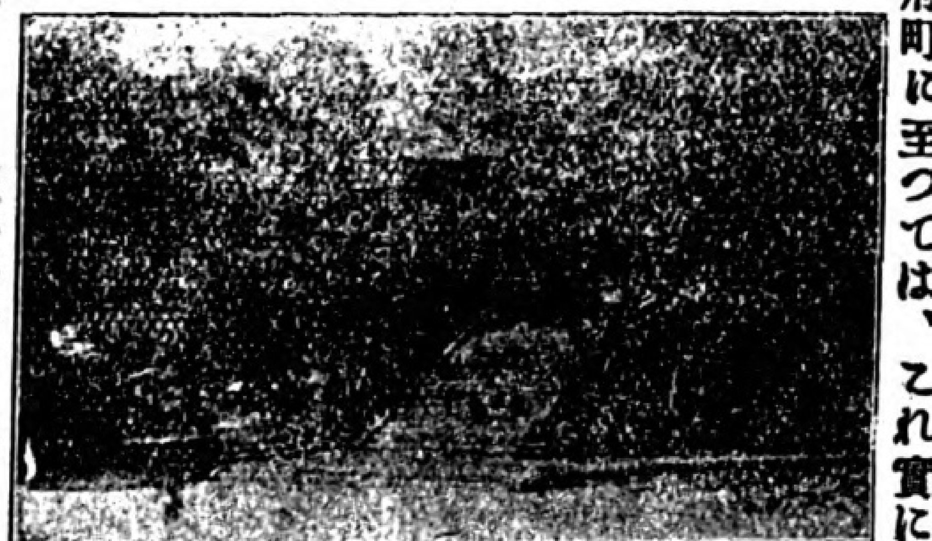
防長二州

一記者

毛利公の御城下、吉田松陰を出し、大村兵部大輔を出し、高杉晋作を出し、來島政久を出し、福原元僴を出し、その他益田、國司、村田、周布、前田、宍戸、久坂、寺島、入江等忠君愛國の士を輩出せしめた山口縣――薩長土肥の名は屢ば廟堂をして重きを爲さしめたる其の長防二州。されど、山口、萩の邊には未だ文明の利器十分に設備されざる爲め、尋常行旅の人の多く訪ふ處とならざるだけ、人情浮薄ならず、貧富の懸隔甚だしからず、住み宜き處、敎育の地には此の上なしと兼ねて聞いては居たが、百聞一見の諺以上であるとは、此處許の實地觀察に依つて得られた結果であつた。

山口龜山毛利家銅像全景

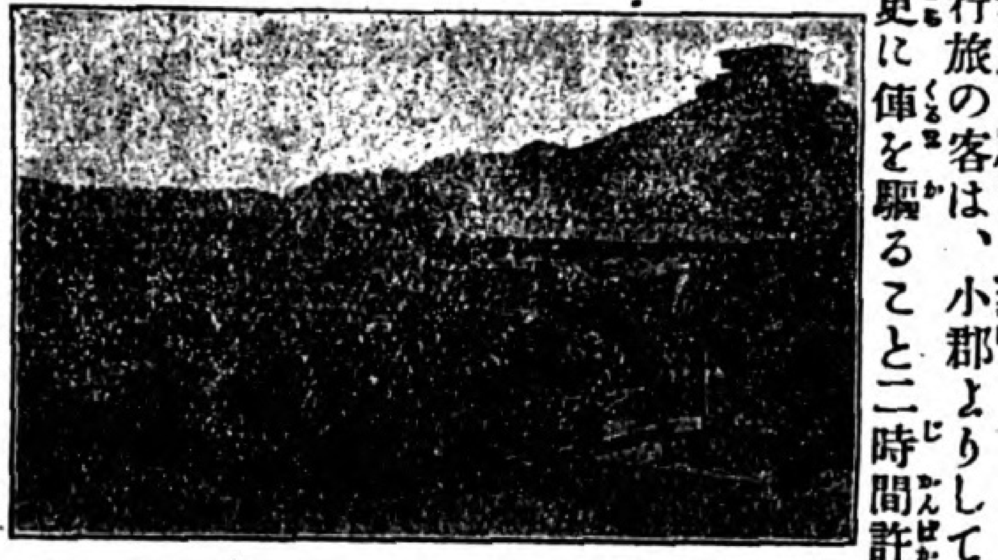
山陽道の西端に位し、東北は安藝、石見に、他の三面は海に瀕せる山口縣は東西三十九里、南北三十里、面積三百八十四方里あるが、就中、海岸に近く名所の見るべきもの尠しとせず。先づ山陽線沿道、岩國驛より一里十五町にして岩國町がある。戸數二千四百戸ばかりの此の岩國町を貫流せる錦川には奇巧目を驚かす所の錦帶橋が架せられてある。その他海に面しては、新港、富海灣、を初め畵の如き風景に富める處が枚擧に遑ない程ある。更に防府町に至つては、これ實に周南第一の勝地で、海岸に近きを三田尻町、山邊に沿へるを宮市町とし、總稱して防府町と名けらるゝ。こゝには毛利公爵本邸があり、結構宏大にして庭園幽邃を極む。戸數約五千戸ある。



山口龜山公園中段

戸數は此の防府の半ばに過ぬが、毛利子爵の邸は今もあり、その往昔、毛利支藩の居城のあつた長府と云へるがある。この地は仲哀天皇熊襲征伐の際行存所に充てられた豐浦の宮の舊蹟で、海上には干珠、滿珠の二島あり、東海岸には松林遠く連り、土地清潔にして風光明媚の土地である。

山口の名を戴ける程ありて、縣の中樞を爲せるは、この山口町であらう。前項にも鳥渡述べて置いたやうに、この地には未だ完全の交通機關が置かれて無い。それが爲め行旅の客は、小郡よりして汽車を辭し、更に俥を驅ること二時間許ならでは、此の山口町に着くことは出來ぬ。が、その代りには、如何にも質朴にして人情に厚い土地である。



龜山より山口市街を望む

山口町を訪はんとする行旅の客の多くは、先づ旅路の疲勞を湯田溫泉に休むるを可とす。こゝで一泊、二泊の後、俥を命じて山口町に向へば約二三十分にして市街に達することが出來る。が、山口町に於て、何を措いても一覽すべきは龜山である。こゝには毛利敬親公以下六基の銅像と旅順の戰利品たる大砲とがあり、山頂よりは山口全市街を望むことが出來る。されば歷史上より、若しくは地理上より山口町を視察せんとする人は、兎に角、この龜山に杖を曳かねばならず、又た杖を曳く十分の價値がある。

續いてまた、現在の山口縣廳は元治元年毛利氏居城として造營されたものであるから、是非注意して觀察すべき處と思はれる。

岩國錦帶橋

更に特筆すべきは、毛利公爵の野田別邸である。尋常行旅の人は、勿論僅かにその外圍を一見するより他には致方が無いが――外圍を一見したのみでも、如何に其の規模の大いかゞ知られるのである。されば嘗て天皇陛下行在所に充てられ、今年はまた皇太子殿下御旅館に充てられたのであつた。毛利公と云へば、此の公爵家と連關して山口町に於て注意せざるべからざるは香山園である。こゝには勅碑、毛利敬親、毛利元德兩公の墓、露山堂がある。殊に山口町に於て注意して觀察せざるべからざるは、他の諸縣より一頭地を拔ける進歩せる敎育の狀況である。此の進歩せる敎育の狀況、整頓せる町の有樣を見る時、流石は毛利公の御城下よと、何人も感に入ることゝ思ふ。

以上の他、山口縣下には萩町あり、下關市あり。人よ、下關が如何に殷富の市街なるかの景況を見んと欲せば、市街の中心、東西南部町の貨物倉庫、米穀取引所等の熱鬧に接せよ。その繁盛を見んと欲せば山陽鐵道の停車場と、九州及び朝鮮へ接續する汽船の乘揚場に來るべし。更に其の風光に接せんとせば城山公園に上り、出船千艘、入船千艘の海峽に對せよ。更にまた此の地の沿革を見んと欲せば、赤間宮、壇浦、御裳川前田、春帆樓、引接寺を訪ふべし。さらば戸數一萬八千許、人口五萬千五百の下關の概略は、人の腦裏に描き盡さるゝことゝ思ふ。

山口大道驛附近長澤の池

最後に一言萩町のことを述て置かう。こゝに昔は毛利家諸臣の邸宅があつたが今は、それが夏橙畑となつて居る。こゝには毛利家の別邸あり、その往昔種々の防備をされた苦心の跡が、今でも所在歷々として見るべく、松陰神社、萩燒の本竈たる阪高麗左衞門の製陶場も有る。

山口龜山公園上り口

閨秀百佳選

前號に引續き應募された方々の氏名を左に御披露致します。尙ほ本號から順次應募の歌を御披露する答で御座りましたが都合により次號からと致します。

埼玉縣浦和町三十六　水野淑子
函館區龜田村　五十嵐やす
岡山縣和氣郡片上町　森島吉野子
京都市上京區栗田口町廿二　中島和子
愛知縣尾張國中島郡一の宮　神林壽美子
三重縣北牟婁郡長島町　西山ひさゑ
山口縣美禰郡綾木村　鷹山良子
東京市芝區濱松町一丁目　林喜久子
愛知縣知多郡半田町　横井初子
山形縣東田川郡新堀村　阿部さゐ子
京橋區銀座三丁目九番地　飯塚きよ子
京都府南桑田郡島路村　中川たか子
福島縣河沼郡柳津村　長谷川吉野
讃岐國綾歌郡坂出町　瀬高やす子
靜岡縣女子師範學校內　安永みち子
三河國幡豆郡横須賀村大字荻原　木俣六め子
青森縣三戸郡向村大向六十三　留目ふみ子
山梨縣東山梨郡中牧村　內藤とよ子
大坂市西區新町南通一丁目　佐野眞子
青森縣北津輕郡金木村　大橋八佐子
群馬縣群馬郡清里村　木暮千代子
青森縣北津輕郡金木村　三上八重子
青森縣北津輕郡金木村　大橋かれ子
青森縣北津輕郡金木村　大橋のぶ子
岡山縣久米郡福渡村下神月　山崎つゆ子
長野縣吉田村　高橋きよ子
福岡縣糟屋郡箱崎町二六四一　田代美喜子
兵庫縣武庫郡西宮町東三丁六三　頭井胤子
京都府丹後國久美濱町　池田美登子
千葉縣關宿町　濱野よね子
廣島縣吳市宇登町　竹入勇子
愛知縣三河國田原町　山內純子
鹿兒島縣肝屬郡垂水村　藤野錠子
山梨縣甲府市山田町　名取正代子
新潟縣高田町清香園內　阿部ひで子
岡山縣苫田郡西苫田村小原　清水梅子
京都府北桑田郡平屋村字上平屋　中西津多子
兵庫縣宍粟郡菅野村大字高下村　長田つれ子
山城國相樂郡棚倉村　吉川よね子
愛知縣豐橋市上傳馬町　平松いと子
長崎縣南高來郡神代村　本田利須子
山梨縣北巨摩郡清春村　小尾たま代
愛知縣豐橋市字旭町　市川みどり
東京麴町區元平川町　瓜生保子
岡山縣備中淺口郡長尾村　小野比佐子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

美顔料 パール 東京青山 平尾分店

西洋お伽 指太郎

上　　青郊

西洋のお伽噺には一寸法師と大男が多い。一寸法師の話ではトムのとポップのとが一番振ふて居るがトムのは結構だ奇矯に過ぎて居るだけにどうかとすると厭み起きがする。ポップのは之に比べると素直で推すべき點が多い。此話は獨逸にも佛蘭西にも英吉利にもある。爰に譯したのは英吉利のポップの方です。

むかし、むかし或る村に樵夫がありました。十歳が首て七人の子持てしたが、中にに雙兒もあつたと見えて、一番の季が七歳てした。こんなに大勢な小供を養ふてゆくのてすから、家は大層貧乏てありました。

此季の子は世にも類のない小さい身體て、生れた時はやつと親指ほどもない位てしたから、名を指太郎と付けました。指太郎は軀が小い計りてなく、生れ付が弱く、口もよく利けぬ所から、皆の兄達に馬鹿にされて、家中て一番ひどく扱はれた上に、何時も叱られて計り居りました。併し物數こそ餘りきゝませんが、物事をするのに敏こく、怜悧な質でした。

丁度、其頃、此村に大變な飢饉が起つて、日に〳〵餓へ死をする者が山のやうに出來ました。唯さへ貧しい此樵夫の家は直ぐ食物は無くなりました。親達は此大勢の口を何して食べさせやうかと、色色心配をしましたが善い思案が付きません。といつて其儘置けば干物になつて仕舞ふのですから、見ては居られぬと云ふので、いつそ七人皆捨兒にしようと極めました。

父の樵夫が母と圍爐火の傍で泣く〳〵捨兒の相談をして居るのを、次の室て泄れ聞たのは指太郎一人てす。「さあ大變、自分達は明日山へ捨られるとは情ない、どうしたらいゝか知ら」と、有り丈の智惠を出して考へましたが、何か思ひ付いたと見へ、翌朝、まだ薄暗いうちにソツト目を覺まし、近くの小川て小石を澤山拾つて袖に隱して、何知らぬ顔て歸り來て又寢て居ました。

其うちに夜はほの〳〵と明け、一人起き、二人起き、聽て皆起きて朝飯が濟むと、何時ものやうに父は子供等を森へ連れて行きました。指太郎は默つたまゝ迹からヒヨコ〳〵付いて、袂から石を道に撒き乍ら行きました。段々歩くうちに森へかゝり、もう二三間も離れると、前と後とが見へ透かぬ程も茂つて來た、そこて父は道具を肩から下して木樵を始めると、子供達は枝を折つたり、柴を集めたり、彼方此方驅け廻つて無中になりました。此間に父はそつと子供を置き去りにして家へ歸りました。間もなく父の姿の見へぬのに氣が付いて皆わつと泣き出し、大聲て呼び廻つても唯オーイ〳〵と、谺が響くのみて影も形も見へません。一人指太郎は平氣に落付いて。

「兄さん、僕等は捨兒にされたのよ。泣いてもお父さんは來やしない。だけれど僕は道を知つてるから、連れて行つて上げやう」

「お前の樣なチツポケが何うして連れて行けるかい」

「それでも僕は道を知つてるもの」

と指太郎は前夜の事からすつかり聞せると、兄達は今更指太郎の智惠に感心して、やつと泣きが止まりました。それから子供等は例の小石をたどつて無事に村へ戻り着くとは出來たが、こわくて家へ入らず、門口に佇んで内の樣子を聞いて居ます。

さて父は子を捨てゝ一人家へ歸つて來ましたから村のさる金持がお金を澤山與れましたので、久振りに御馳走を拵らへて食べ出しました。子供が表口に居るとは夢にも知らず。

母「子供達は何うして居るのでしよう、さぞ泣いて居ましようが、狼にでも食はれはすまいか、可愛さうに」

父「ア、此お金が今少し早く手に入るものなら捨てなくても濟むものを」

と二人してすゝり泣きして居ます。子供達はもう堪りません、大きな聲を出して

「お母さん、僕等は皆此處に居ます」

母は直に飛び出し、抱き付いて嬉し泣きに泣き、父も轉び出て無事を喜びました。それから暫の間は前の通りに樂しく日の暮しましたが、貰つたお金が段々なくなつて、食べられなくなつて來たのて、又捨兒の相談が持ち上りました。そして之を泄れ聞きしたのは又指太郎でした。指太郎は又前のやうに石を撒いて行けばよいと思つて朝早く小川へ出やうとしましたが、此度は戸が堅くて何うしても開きません。其うちに夜は明ける、仕方がありませんから兄さん達と一緒に朝飯にかゝりました。お母さんが銘々にパンを一つ宛呉れましたのを指太郎は少しも食べないて、小石の大さに細かく切つて袂へ入れました。之は石が拾へなかつたので其代りにパンを道知るべに撒く積なのです。

さて、御飯も濟んて森へ連れられて行きましたが指太郎は前のやうにパンを撒き〳〵後から付いて行きました。此度は前よりも一層奥深いよく茂つた森へ行き着きました時、父は仕事にかゝつて又何時の間にか姿をかくしました。暫すると父の見へぬのに氣が付いて皆泣き〳〵呼び廻つて父を搜しかけました。指太郎はあのパンが道にある筈と一心に尋ね廻しましたが、鳥が食つたのか何處にも一切も見へません。

一口噺

○　　失名子

今年四になる男兒を祖母が背負ひつゝ

祖母「今の内はおばあさんがおぶつてあげるから、坊やが大きくなつたら、おばあさんをおぶつて頂戴よ。

子供「おばあさんは下駄がないの

祖母「イヽエ

子供「そんならおばあさんは小くなるの

○　　太田久野

父親娘に向ひ。

「あの若い男は又やつて來たのか

娘もぢ〳〵し乍ら

「イヽエお父さん、さつき忘れ物をなすつたので、それを取りに被入したのよ。

○　　瀬高やす子

下女「奧樣大根賣がまゐりました

奧「母樣はゞかりよ

下女「イヽエ葉ばかりては御座いません大きな根もついて居ますよ。

○　　同　人

梅子「兄さん蓄音機の内には人が這入つて居るのてせうか。

小兄「梅ちやん知らないの、僕の喉にだつて人は居ないぢやないか。

○　　横川明子

腕白の凸坊お隣りの小母さんに向ひ。

「小母さんチヨーズの神樣の年を知つてるかい、オヤ知らないの、四十九才よ。

○　　長崎よし子

東京より歸れる兄に向ひ。

妹「アラ兄さん大變ハイカラになつてよ

兄「ハイカラは洋服に最も必要のものだ

○　　同　人

此頃の女學生

甲「私此頃島田に結つたら、叩頭する度に頭が重くて困るわ、

乙「それじややつぱり庇髪にしたらいゝてせう、

甲「庇が亂れるので先が見えないわ、

乙「市區改正をなさいな。

毛髪用 パール 東京青山 平尾分店

懸賞梅か櫻か當選披露

大好評の裡に締切となつた懸賞梅か櫻かの結果は、前々號に御披露した通りて御坐いますが、其節申上げて置いたやうに正解に近き解答者三十二名の中、抽籤を以て拾名の方々に、女讀論叢を差上る筈て御坐いますので、今度愈々本書が冊刊されましたに就て、本月三日當發行所關係者立會の上、公平なる方法を以て抽籤を致しました處、その結果左の如く決定りました。

東京　土井すゑ子　　長野　植原千代子
伯耆　佐伯まさ子　　東京　吉野てつ子
秋田　三浦婉子　　千葉　那須わか子
大阪　佐野眞子　　東京　松橋りう子
東京　相川つる子　　岡山　木村たま子

決定ると直ぐに賞品を發送しましたが、土井すゑ子、佐野眞子の兩氏は住所不明の爲、控えて居ります。至急御通知を願ひます。また木村たま子氏からは早速禮狀が參りました。

第八十五回 文苑募集

和歌　夏季雜題　大口鯛二選評
俳句　夏季雜題　内藤鳴雪選評
短文　十行以内　編輯局同人選
新體詩　題隨意　編輯局同人選

ちゞれもくせも はへうけあい 二大奇法

妾の手がけた方で右の疾患に罹り種々治療せしも癒らぬ人悉く治りし故夫て皆樣の御勸により御披露致升大抵の患者にても三劑使用効驗確實て有升郵劵二錢送附あれば實驗詳細書を呈す
東京麹町區飯田町四の十六
女髪師　安部歌子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

編輯局同人選評

二等

首夏　東京　清岡忍子

日は將に落ちんとして世は薄靄の中に暮れはてぬ。ぬき捨てし花染衣の匂ひ忘るとにはあらねども、夏衣の袖も心も輕きまゝ、程近き川邊の若葉の影さまよへば春の名殘の花三つ四つなべて綠なるが中にもゆる計なるいと美し。笹の葉そよかす風も絶えて、水車小屋に立つ夕げの煙いと靜けきに、小田の蛙のみぞ時を得顔に鳴きしきるもおかしきに、馬ひき歸る小屋の主か流るゝ汗拭ひもあへず、銅色の肌もあらはに馬の背なで、水飲ませ居る優しさ、夕暮の景色ひときわ美しきを覺ゆるやうなり。

評。清新幽雅。缺點を擧れば遂筆に任せたる文字のきたなき、十行以内てふ規を無視したる、誤字の多きなど、心すべき節々いとさわなり。

三等

濱離宮　東京　佐野くに子

老松の奏ずる樂の音に袂もかろく、千年かはらぬ磯風の調の玉垣にゆらぐもゆかし。濱離宮に拜觀の榮を得て柴の園生をありくに、足は地の上を踏むとも覺えず小高き丘を登れば、品海の笹舟遠近に浮ぶに、釣りする海人のあたり近う見ゆるなどたとへん詞もなし。われを忘れてみとるゝ程に、海士の身の上羨ましと思はるゝもおかし。

評。選者も拜觀の榮を得たる一人なれば感慨も殊に深きものあり。

佳作

○　群馬　伏島たき子

蒸しあつかつたのも一しきり。さとふりすぎた夕立に世間は洗ひ清められたやうな氣もちがする。靈見にも今し夕の鈴虫すみて、一同もゆふげをしたゝめた。折から窓ごしに新月かげあはく、そよ／＼と吹き入る風の心地よさ、何となく清新の氣胸にみちて、終日の勞と自らなる情氣とみはらしてあまりある。

評。老錬なる文章流暢にして趣きあり。

財婚　大分　佐藤季子

某華族の姫君とやら、而も數萬圓の持參金付て、何處へでも嫁付給ふとか……之を聞込だ或醫學士、それ寺と早速結婚申込、首尾よく縁談調ひ、銀燭燃爛たる中に華やかなる結婚式は擧げられた、間もなく新婦の綿帽子は取り除けられ、企鐙まばゆくお顔を照した。見れば哀や造化の神の惡戯か、雨傘入らずのお出額、グツトひしやげた天吸鼻、給の四五枚も挑れそうな大一番の鰐口に、亂ぐいのやうな齒を見せた、之を眺めた新郎殿の顔付。

評。こんな話がよくあります。財婚は警句です。

○　中島千萬子

七十路近きおきな他より大鯛を貰ひしより友とうたげせばやとて、自ら調理しつるなりから、いづこよりれこのれらひ居にけむ。忍び出て其かしらを口にせしほどにすはとたちさはぐ間にくはへしまゝ、ねこはにげさりぬ。おきないたくくゆるともせんなし、友人の来にければおろかしき咄を口をしげにしつるとおかしれこも又えものを得ていづこに友とうたげやしつるらん。

評。古き物語本を讀むやうなる心地せり。

兼務　下野　那須の花

一軒家を借りて住めば、早や明日から私は内務大臣兼大藏大臣にて良人は外務兼總理大臣、之で内政も外交もきつと良好と確信する。

評。左樣でせうとも。

○　岡山　山崎露子

まちはさびしくなりはてつ、犬の遠吠かすかに聞ゆ折しも十二三の少女見る影もなきが、聲もあはれに辻占召せと呼びありく樣、如何なる人の子か、知られど云ひ知らぬかんにうたれてなん。

評。平凡に陥らぬやう勉め給へ。

ちかひの松　本所　中山由子

別れに望み互みにちかひて、庭に手植た松の二樹、私よりも枝ぶりの好い姉の松は、今年になつて何うしたのか、ふく芽は細く綠の色もさえてこぬ、都に一と花咲かせてと三年前、あらゆる希望をい抱て旅立つた姉樣のこと、よもや松の樣ではあるまいが。

評。氣づかはしかるべし。

雨後の峠　京都　大草淺子

綠滴る木立を縫ふて、縫踦七曲り、父が鋼の料にとて三更に眠る纍や、都には惜しき與兵衛が一粒種、娘お房の茶屋の婆に草履を脱さぎて、衾を谷間の聯踊に擴すを、汗の滲んだ郷ふ客の朦朧しに眠をくれる、蓬江の峠。鯛の雨になつたる夕立晴れや、虹は魏の馬子の鈴に消えそめて、入陽浴びたる翡翠一羽、南に黄昏の幕を引て飛び。

評。文字に拘り過ぎたる觀あり。

秋讀　京都　山本ふみ子

一日千秋と待ちに待つた小包、とる手もどかしやと荒けなく包紙引け裂けば、箱入の美本、おりーぶ色の表紙金文字で現せる題字、夢中にて机に靠と胸つけて讀み耽つてしまつた。庭には夕暮の小雨しめやかに、丁寧に繰る頁々から洩るゝ新刊の薫りのみ立ちまさるなり。

評。新刊の薫りは面白い。

牽牛花　東京　永井なみい

狭き庭に二鉢三鉢、並べたる牽牛花の四五日見ざる間に美事に咲揃ひて、目さむるばかりなるに見惚れ、露未だ消き夏草の蔓延れるが、折に適ひていと心地よく眺め居る折しも家根に二聲三聲鳴く鳥の羽音鋭く飛び去る途端、惜や朝顔の鉢に白き糞を落したり。

評。寫生文の尤なるもの。

繁忙　岡山　坂田元子

山から柴を刈つて歸つたと一休みしやうと荷をおろすと、雨が降りだした庭に干してあつた麥を取りかたづければならぬ。せんたく物もしまはればならぬ。雨は小止みもなく降りしきる。

○　東京　鈴木エイ

待ちかれた愛國婦人、とる手おそしと見れば、いつも有益な記事多く、世の婦人たちの此上なき文の友、また姉君方の文章は、紅紫白とりまぜて美し、私も腰折草にてもと寄へ居れば、初夏吹く風の庭に咲く薔薇をかすめて、得ならぬ薫りを送り來ぬ。

評。文章體と口語體とを混じ給ふべからず。

友　呉市　山縣秀子

三春の間水魚の交りを結びしも、袂を分てより五年間忘るゝ暇なき、懸しき友なつかしき琴子の君、いよいよ樂の卒へ、錦を着て歸るの日、近よれり。我喜び此上はなけれども、君昔日の情に異りなきや否。

評。君の眞心をいかで忘れんや――選者琴子の君にかわりて答ふ。

次郎のいたづら　東京　愛讀女

一寸小用にと立上れば、今まで庭にいた次郎コソ／＼と裏口の方へ逃げ出す。又例の砂惡さよと思ひ乍ら、後れば間もなく外より入りくる太郎母さん大變と大聲を出す何んですれと問へば、だつて昨夕僕が緣日で買つてきた金魚が一つ殘らずシネリつぶしてあるもの。

評。その位の腕白は普通でせう。

選外佳作

●荒磯　瀬高やす子●折にふれて　西村長子●愛らしき娘　中島春子●どうしやう　横川明子●行春　横浦美喜子●夕　黒須喜久子●思ひ立ち　ひで子●眞の愛　小山季茂●花輪よしの●友　植原千代子●人の心　武無子●朝の散步　足立きく子●留守居　市川はな●寫眞　齋田とめ●正直　藤野錠子●親切　阿部さゐ子●歸省前　加藤李花子●亡兄を慕ふ　長崎よし子●夢　川渕玉枝●養蠶娘　前島さだ子●吾家の庭　那須の花

大壜（一反染）拾壹錢小壜（半反染）六錢郵税壹壜二錢

東京小舟町
かつらや　青山染料店
電浪二九五八番振替三九五番

小説 灰燼

上司小劍氏新作●精巧寫眞版四葉挿入 四六版洋裝頗美本●定價五拾五錢 郵税六錢

◀現代青年の活きたる歷史▶

一世の老人が古い夢を見てゐる中に、一代の青年は相率ひて新しい酒に醉ふた、文壇に於ける近頃の傾向は即ち其一面を示すものであるこの小説は理智と情意との衝突し混亂した今の青年の活きたる歷史とも見るべきものであらう。

東京日本橋　春陽堂（振替一六一七）

めりんす友染の形がよくて大安賣する

おなじみの日本橋區人形町通り赤のれんおばなやにて本年は木綿中形ゆかた地を製造元と特約いたし實に目のさめる樣な頗るいき向き新柄及格安物いろいろ

取揃へほんとにお安く差上申候間御らん旁々御光來の程奉願上候

尚例年の如く手ぬぐひ中形も新柄を撰み格安に差上申候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新詩

編輯局同人選評

二等

しみの跡　京都　湯淺ふみ子

しとしとと
更けふくらまひ夜の胸
ああ歔欷る
雫は滴るゝ追憶の
雨洩りすなり。しとしとと
白晝を明き自意識の日差爛けなば
干てこそゆかめ然はあれ
更けたる此宵思出の
しづくぞ洩るや
ひと夜——胸なる
疊に汚染はしとしとと
饐えゆくさまに跡をのこしぬ。

評。奔放の筆致克く追憶の情を盡せり。

三等

花の一片　東京　藤田いく子

春ゆきぬ
袂にのこるものやなに。
ありしその日の華やぎの
夢のちぎれか
あな戀し。花のひとひら

評。幼き戀なるべし。その面影も見ゆるやうにて。

佳作

みかつき　東京　川浪玉枝

流れ彩る野末の雲も
いつからうすれてそよ風たてば
羽根も輕げに飛ぶ蝙蝠の
何が欲しさに來たかと問へば
凄涼しき川邊の柳
水にとかした緑の髪に
さした銀櫛あのみか月を
取つておくれと飛び廻る。

評。輕妙

白百合　東京　佐野くに子

さ青なる森の影
みづ枝さす樹の下に
咲きいでゝ香に匂ふ
女の童——白百合の
みづみづしその姿。

評。藹然として可憐な歌。

野忘れ子　鳥取　橋浦美喜子

野かくれぬ若葉の囁やぎ
歌のみは漂よひ流れ
些やかの餘韻のこして
我が胸につとくゞまりぬ。
野忘れ子一人さまよひ
歌のあと漂よひ暮れて
微妙にも聲なき野良に
うつぶせば涙ながるる。

評。多情多恨

街の暮に　京都　山川信子

夕は沈む屑をゆりて、　赤き光に街をつゝむ
臨終の人が望みに醉ふて　諸手に雨を拜すごとく
やがては寂びて紫ながる　晝の燃えたる埃をあびて
喘ぎの息に人は動けり　工場車はゆらめき鳴りて
靜かに街は暮てもゆくか　今見よ甍焼けたる底に
饑ては消き露こそ頒かむ　かくても輝く白き玉の
人の世はこれ夏の白晝　むされて歎く宿世のものか

評。露骨ならぬやうに歌ひ給へ。

夕空　京都　春子

柳さくらにいろどりし　都の春もさめはてゝ
あたりさびしき東山　暮れゆく空をながめつゝ
ひとり愁にしづむとき　慰めがほに星の輝る。

評。今一際つとめ給ふべし。

停車場　岡山　八木清子

からくゝと俥はつきぬ。
威勢よくおろす楫棒
花嫁の一行なりき。
汽笛鳴る——汽車はゆるぎぬ
青白くやつれし顔も
うるみたる重き瞳も
黒き煙につゝまれぬ

評。着眼は面白し。勉めて推敲あれ。

おぼろ夜　能登　松本千代子

噫一時の夢なりし　盛りの色を歌はれて
妙しき香りを愛でられて　仰がぬ人もなかりしを
散り來る櫻ながめては　かへりみるわが花ざかり

評。單純なれど趣味なきにあらず。

夕虹　函館　前田武子

緩う流るゝ里川の　蚊篝をもるゝ水の音も
初夏のひゞきを傳へ來て　靜心なう散る花に
春の夕殘の忍ばれる　晴れし青空たそがるゝ
峰の若葉に夕映えて　たが手すさびの繪筆にか
西よりかゝる虹の色　夕星もまた輝よふ

評。平常の作に比して数等の見劣りあるは口惜し

五月雨　久惠

いさゝ川青葉のひまを　流れつゝ跡のさゝやき
音たてゝ昨日と今日と　暮しゝを流れつ早き
月と日にはや五月の　みたれ空やみをすかして
とぶ螢あなたこなたに　追ふ人も數みえそめぬ。

評。寫實なるべし。

選外佳作

□さすらひ　石藤惠志子□哀歌　香葉はつ子□無線電信　西山ひさゑ□郭公　鈴木まつ子□社前の夕　山崎露子□うつしえ　小林龜子□夕立　瀧澤てい子□那須の野　黒須喜久子

應募者へ注意

一、應募諸子の奮勵と勉勵とによりて、新體詩壇創設日尚ほ淺きにも係らず。頗る盛況を見るに至れるは選者の最も欣ぶ所なり。
一、本壇の盛況を呈すると共に、應募者の數も益々増加し、毎號新らしき作家を出し、應募投稿も夫に從ひて増加しつゝある今日なれば、
一、今後選者は一層本壇の發展を計らん爲、從來よりも撰評を嚴にし拙劣なるものは遺憾ながら沒書にすることゝせり。
一、これ甚だ酷なるが如きも、本壇の進歩を計らんとせらるゝ方は必ず首肯せらるべし。
一、されど諸子が苦心の作を猥りに沒書にするは心苦しき事なれば、なるべく應募者は二篇以上づゝ投稿せられたし。二篇以上幾篇にても多きは差支なし。
以上一言す(選者識)

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話(特)本局六七三番
電話本局四九八番
定期預金 六ヶ月以上 年六分五厘
當座預金 百圓に付日步 一錢
小口當座預金 同日步 壹錢參厘

東京市麹町區錢瓶町(常盤橋内)
日本興業銀行
電話本局 一、二八〇番 三、三〇〇番 四一番 (特)三七番 一〇二番
資本金壹千七百五拾萬圓
營業科目
一 擔保附社債に關する信託業務
一 有價證券其他貴重品等の保護預
一 有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一 地方債、社債、株式等の發行募集事務
一 各種の信託事務
一 國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一 國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一 法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一 定期預金、特別當座預金

(注意)

近來類似品を販賣する者あれば御買求の節は右瓶の形狀及び二頭の麝香獸に御注意を乞ふ市内賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候
麝香獸印
ムスク香水
大瓶 壹圓
中瓶 六十五錢
小瓶 二十五錢
●芳香の永く保つ點にて高評也
東京日本橋本石町四
松澤常吉

皮膚特効美白新劑
チプリ化粧液

小瓶三十グラム入 金貳拾五錢 送料四瓶迄八錢
●本品は西暦千九百〇六年の發明にして常用せば肌を軟密にし自然白色艶麗の美顔たらしめ「ニキビ」「ハタケ」其他「顔ノアレ」等に最も奇効あり
●効能顯著なる爲め印紙貼用せり化粧水にして貼用せるは本品を嚆矢とす
●東京市内は勿論到る處の賣藥小間物化粧品店にあり品切れの節は送料八錢(四瓶迄)相添へ本舗へ御注文あれば直送す
日本一手販賣 東京日本橋區本石町 松澤常吉

色白くつやをだす
松澤ホーサン石鹸

大形一個 廿錢
小形一個 十錢
(にせ物)あり右商標と松澤名義に注意
東京本石町四丁目
松澤常吉化粧品部

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

俳句

内藤鳴雪選評

天　三河　石川　類子
をとめ子のすゞしの袖に螢哉
評。清淨無垢（すゞしは生絹の衣也）

地　東京　松田　重子
苔清水汲みて世に賣る翁かな
評。神乎仙乎

人　越前　飛田　わさ
花の雨布團かむりて寢たりけり
評。多情多恨

佳作

螢の紋のひそみてわびし篠枕　三河　市川　はな
五月雨や端山の小家烟見ゆ　神田　栗山てい子
一行の白鷺東や夏の月　栃木　黒須喜久子
原句「先達の」
初夏の水田にうつる夕日哉　芝區　小山　季茂
原句「夏の暮」
森の奥に鵺の聲して青嵐　青森　松尾とし子
風過ぎて葉竹の音や螢狩　山形　阿部まる子
原句「風なきに」
若苗や歌も書くべき短冊田　愛知　下郷すゑの
夕立に追はれて一人暇なか　仝上　仝　人
原句「追はれて急ぐ」
時鳥啼きつる方や夕月夜　岡山　西村てふ子
行水を蚊の鳴く方にあけて見　京橋　武田　つる
ふき了へて軒端床しき菖蒲哉　越前　福谷たけ子
原句「ふき上げて」
五月雨や蜘蛛を見てゐる窓の人　東京　川濱　王枝
春行くや洒なき我れの忘れ顔　横浦美喜子
其奥に琴の音もして青簾　韓國　市村　靜子
初虹や玄海灘の貢船　京都　大草　淺子
原句「虹渡す」
み旗船や護が棹さして時鳥　京都　須田　青子
原句「名殘の匂ひの時鳥」
菖蒲太刀片手に幟掲げて來る　福井　飛田　わさ
灌佛や遊ぶ子供も濕つ裸　韓國　永見田鶴子
螢火に河一筋や夏の暮　失　名
昨日見し花は梔子になりに鳧　備後　世良　龜子
絵日傘に蜻蛉とまる夏野かな　神田　足立きく子
原句「蜻蛉とまるや夏の暮」
鐵鉢に一摘み止めし新茶かな　越前　古瀬　齊村
原句「旅僧の買ふ」

螢の峰濱にも音もなき鳳蓋　越前　野田　鶴子
月涼しく柳の日影を右左り　越前　三谷さだ子
山寺の夕鉦早き夜りかな　越前　三谷　葛子
若楓小さきながらに瀧もあり　東京　宇佐見市子
原句「小さきながらも瀧もあり」
なく鳥の姿見つけん夏木立　京都　中川たか子
鶴の背に騎らんとぞ思ふ拳の風　福井　野田　鶴子
明けのころ月より高き雲雀哉　福井　三谷　葛子
池中にそよげる風や若楓　東京　脇　孜子
締直す草鞋の紐や若葉道　京都　湯淺　英子
日の當る金魚の鉢や苔の花　大阪　樋口　榮子
時鳥鳴くやいかだの捨篝　長崎　内藤萬龜子
時鳥月ものこりて城の上　東京　彦坂たき子
夏の月痩みだれ髮の淋しき　栃木　黒須喜久子
いつ見ても荒き風情や夏柳　下野　那須の花
邐迤は道の暗さや夏木立　京都　湯淺　英子
卯の花にかたよる野路の夜明哉　山口　蔦田　眞子
大杉のかげおそろしや森の月　函館　五十嵐やす
破れ垣卯の花咲きて月寒し　東京　伊矢野峯子
葉櫻に足場渡すや宮普請　京都　植村ます子
袖が要の何煮る烟ぞ青嵐　東京　池田　其子
短か夜や藤樹が門の治郎右衛門　三重　西山きよし
五月雨をさびしと啼くや村雀　大分　桂木清閑女
夏痩を断ちて衣を更へぬ哉　能登　松本千代子
手を打てば這ひ來る兒や初袷　三重　莊司　種子
原句「手拍子に這ひ寄る」
夏草に逍遙立つ旅の僧　失　名
訪ふるゝ青葉の里や乳母住みて　東京　鶴岡とく子
紅一點渡舟の中の日傘かな　東京　赤澤　英子
袷着て兵兒謡唄ふ書生かな　三重　西山　數子
短夜を喋りに終へし五十韻　三重　西山ひさゑ
蟹追ふ少女のむれや岬の中　岡山　清水　梅子
舟下す笛吹川や夏の月　紀伊　中橋多新子
徒然や五月雨日記歌日記　岩代　長谷川吉野子
原句「初夏や」
短夜は月も思はず明けにけり　東京　猪俣たみ子
夕立や灯ともす宿の軒雫　東京　中山　由子
田を植えて安けき里のけしき哉　長門　蔦田　眞子
植上げた田に神風の渡るなり　東京　秋元　小菊
米を研ぐ門の流れや杜若　京都　茨城　茂木
原句「水の流れに」
古足袋もつぎ盡しけり五月雨　東京　はつ子
雪洞に落ちて聲なし夜の蟬　東京　中山　正子

小兒科專門
腺病質（瘰癧症）
小兒胃腸障害（脾疳）
腹膜炎（脹滿）
小兒皮膚病
メヂチーネル　ドクトル　長井岩雄
東京日本橋數寄屋町（呉服橋外）電本白八十

院長　醫學博士　榊　順次郎　婦人科産科　毎日午前診察
副　醫學士　久保徳太郎　婦人科外科　外國留學中
副　醫學士　田代謹二　婦人生殖器病　泌尿器病及内科　一般火木土午後診察
●施診火木土自午後一時至二時
婦人科産科　榊病院
麹町區三番町三三（電話番町三九五）

胃病良薬　太田胃散

商品案内表　無代送呈
商品種類　金銀時計類及附屬品眼鏡類　寶石入指環金銀盃　旅器類洋食器七寶花瓶　貴金屬美術装飾品各種
大勝堂
東京銀座通尾張町　電話新橋二二六四番

肺炎に罹りたる後スコット乳菓を用て健全となりたる例證

愚息儀肺炎に罹り滿三ケ月間伏蓐罷在り萬一回復するも結局は肺結核となるべしとの事にて總身肉落ち骨顯れ見るも不憫の容体と相成申候然るに醫師の勸告に由りスコット乳菓を服用せしめ候處未だ一壜も飲み盡さゞるに食慾大に進み總ての經過良好となり現今にては却て罹病前の何れの時よりも健全にて相替らずスコット乳菓を嗜好致候拙者共はスコット乳菓が愚息に與へたる好果を視て右愚息の平癒を以て全くスコット乳菓の効驗の致す所と確認致候

千九百六年三月十一日

シーフキルド、ドールセット街六拾三番地
ジョン、イー、ブレーキー

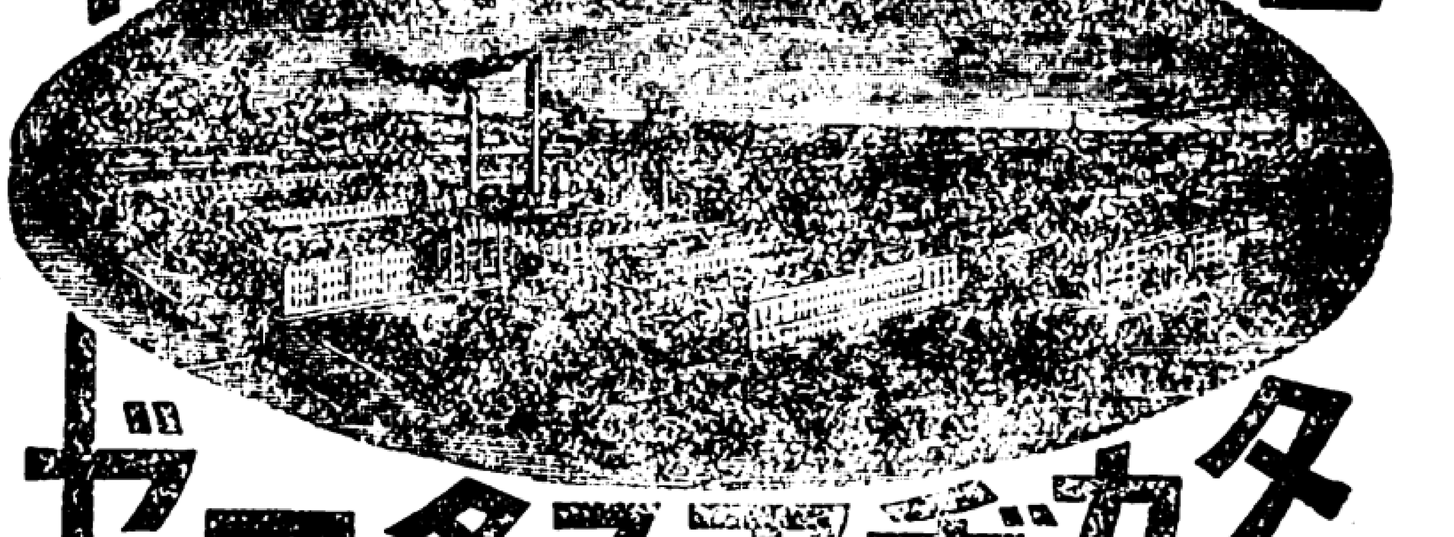
右快復の理由

右ジャッキー、ブレーキー、が肺結核とならずして快復したるは全くスコット乳菓中に含有する優逸なるロフオテン大口魚肝油（最上等にして最高價なる肝油）が其肺臟を癒やし其全身に良好堅緻なる筋肉を造成せしむるの精力を有したるが爲めなり

他のありふれたる大口魚肝油乳菓は斯くスコット獨得の完全なる製法に由りて充分に消化し易くせられたる最も純良にして最も活力に富める肝油にて製せられたるものに非らざるが故に斯の如き偉功を奏する能はず

包裝の大口魚を負へる漁夫は前述の如き驚くべき快復が唯偶然のことに非らずして確實の事實なることを保證す

TAKA-DIASTASE



タカヂアスターゼ

世界最大の製藥工場

パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。

タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。

高峯氏發見消化新劑

完備せる装置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、毎瓶強度均一にして、又其効力永久不變なり。

醫師及藥舗諸彦！模造品製造者の誇大なる虚僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の實品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徴し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舗にて販賣す

代理店　東京南茅場町　三共藥品合資會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大口鯛二選評

——夏季雜題——

一等　佐賀　小林龜子

袖かろきひとへにかへてうなゐ等かあそふ姿の心地よけなる

評曰。單衣に更へたる姿は誰もゐよげなれど幼兒はことに目に立ちてなん。

二等　和泉　金田つるえ

初音そと都の友はよろこひぬわかきゝあける山ほとゝきす

評曰。山時鳥の山は大方埋草に用ゐらるゝを此の歌には尤も要あり。

二等　山形　阿部さゐ子

このまゝに消えすもあらなん夕月のまとにうつせる若竹のかけ

評曰。誰もいふところなれどふるめかしからぬは實地より出てたる歌なればなるべし。

三等　東京　小山季茂

濱寺の鐘の音遠く浪にきえて松風涼し夏の夕ぐれ

三等　群馬　伏島たき子

いそしみしこかひはをへぬ庭にいてゝすゝしき月のかけもふけはや

三等　京都　花輪よしの

月をのみ友とゐもひし山里の旅ねのまとにきく郭公

四等

我里は水あまき里時鳥絶えず啼く里若葉よき里　岩代　長谷川吉野

よとみなく流るゝ川の岩の瀬に月影ゆれて涼しかりけり　東京　松田重子

ぬきかへてかろきたもとになつかしく庭のわか葉の風かよふなり　豐橋　平松いと子

うつき咲き若葉しけれと市中はまつかひもなし山時鳥　岐阜　小島駒子

神遠く入日すゝしき夕くれにはま田の早苗いそきとるみゆ　山口　末田竹子

花めてし庭のさくらもいつしかと若葉になりて夏は來にけり　長門　富田夏子

夏やすみ都かへりの姉君の話なつかしみ物語る宵　岩代　小川しん

つるへもつ手をはとゝめてめつらしくきくや初音の山ほとゝぎす　岡山　入水清子

はしゐして風待居れば夏木立光すゝしき月そもりくる　三河　石川順子

いさゝ川流るゝ水に影見せてさひしくゑめる姫百合の花　大分　植木清閑女

涼まむとはしちかくいてゝながむれは雲なほ白しふしの遠山　甲府　名取正代子

箏の音のしはしたえだるほそどのゝのきはにゝほふ夏のよの月　東京　飯塚さよ子

少女子かこゑ面白くうたひつゝ暮るゝも知らて早苗とるなり　青森　田島正子

ふみをよむこゑはとたえてかやり火のけふりたちのほるやまもとのいほ　靜岡　倉坂清子

風ふきて波よる蚊帳の手まくらに月をも入れてすゝむ夜半哉　群馬　水嘉千代子

ふちなみのかけゆく水にすむ月はうす紫の雲そかゝれる　山城　古川よれ子

かへりゆく友なつかしみ青葉かけみえすなるまてみおくりにけり　長野　植原千代子

有明の月かけうかふ池水にうつりて匂ふ花あやめかな　東京　林きく子

ふるさとのふみのたよりもたえはてゝいよいよさひしさみたれのころ　東京　飯塚清子

小島なくこゑのみもれてわか庭は青葉に暗くなりにけるかな　山口　末田貞節子

己が家は手がひのれこにまかせをきて老も若きも早苗とるなり　東京　小宮とめ子

さみたれに山田の水やまさりけんこゑもあふれて蛙なくなり　東京　清岡弘子

夏木立をくらきまてに茂りあひてちる露すゝし山かけの庵　京都　中川たか子

なごりなく朝雨はれて賤の女のいかにすゝしく早苗とるらむ　橫濱　鈴木まつ子

湯上りのぬれ髪ときて端居してはからす聞きつ山ほとゝきす　東京　西川鏈子

都辺の友に來ませとつけやらん夜毎〱になくほとゝぎす　青森　三上八重子

そら耳とおもひていれしまくらへにひと聲なのる山ほとゝぎす　大阪　十合賞美子

夕顔の花も咲きけり月もよし涼みかてらにとふ人もかな　岡山　西村昌子

なつかしきわか友のせて風きよき磯濱つたひ小舟さをさす　東京　足立きく子

よひとめし友の袂にいれてやる螢よてらせかへる小路を　鹿兒島　松村壽賀子

郭公里の垣根の卯の花にしのひ音もらす夏は來にけり　三河　山内經子

しけりあふ青葉をもれてふく風のはた心地よくなりにけるかな　京都　津田君子

ぬきかへし衣手かへす新風にふきおくられてきつる野邊かな　能登　松本千代子

五等

稻田におひよせられてとふ螢また光をかくしつるかな　福島　角田よしの

二人まて友のいひこし嬉しさにまたも催すほたるがりかな　福島　松の操

夜もすがら蚊やりたきつゝ病む母のみとりし居ればふくろふのなく　岡山　清水錦子

ちきりおきし友まつ宵にほとゝぎす卯の花月のかけになくなり　鹿兒島　藤野綾子

いほ近き水鷄の聲にはかられて明け易き夜をおきいて見る　三重　西山きよし

病む母をみとりかてらにたく蚊遣心ほそくも煙うするる　香川　瀬高やす子

宵の君の夕餉のせんにのほせてんわかつちかひし瓜のはつなり　愛知　湯淺いよ子

かひこかひ早苗を取りて賤の男かわさにいそしむ夏は來にけり　青森　大槻信子

おばしまによりつゝみれは前山の紅葉すゝしき時となりにき　愛知　下郷すゑの

子らはみな學の庭にかよふなりしはしの暇こかひをやせん　大阪　佐野眞子

けふはゝや春の名殘となりにけりみとりそひゆく夏山の花　三重　荘司種子

麥畑は皆の小笠の折つゝき心地よきかな初夏のかせ　青森　留目文子

生垣の卯の花白く咲みちて雲ひくうして夕はえの空　京都　伊矢野學子

蕾ながら匂ひこぼるゝ芍藥を紙燭してみる美しき人　岡山　横川明子

つくろはぬこゝろもゆかしやれかきにひとり咲めくなでしこの花　赤坂　清水まつ

今夏にうつり香ふかき心地してかふるはなしき花染の袷　山城　古川よれ子

谷の戸の古巣思はて鶯の花なき庭に今日も來にけり　函館　安藤喜美子

涼しくも見えすきにけりこかくれのまなひのまとのともしひのかけ　堺市　金田久子

はかなくも早明けにけりおもふどち語りもあへぬみじか夜の空　京都　雛波らく

雨はれてまたもかくれになく水鷄ぬる人々をおとろかしぬる　紀伊　西山數子

窓の月すみゑにうつすわかたけのえたすゝしけに露そきらめく　三重　中島千萬子

身をこかす螢に聲のたつならはいかにかなしき音をかきくらん　三河　市川はな子

一枝をこひて母へのつとにせん家守かいほの夏菊の花　岡山　原田元子

伊原青々園氏新著

若狹物語

◀新刊小説▶

●梶田半古氏繪四六版洋頓美裝本●

實價五拾錢　郵稅六錢

東京日本橋　春陽堂

あせしらず

汗臭を消し寢しなに用ひの●みに喰れず●涼しく安眠を得
婦人湯上の薄化粧、小兒の股下、股等に打掛け速に汗を乾し懷中して匂袋の代りに、顏を拭けば顏の油を取り早化粧となる、夏の必要品…

到る處の小間物藥店に販賣せらる

發賣　東京日本ばし坂本町　徳田孝助製

醫學博士　千葉稔次郎先生校補
醫學士　增田知正先生遺著（通篇愼密なる傍訓を附せり）

●最新刊●

產婆學

全一冊

●製本本綴美麗●著色密畵多數入▲正價金貳圓▲郵稅金拾貳錢

本書は先生が曾てその自ら經營せる東京產婆講習所に於て日々生徒に講述せる所に基き斯學日進月歩の程度を付度し且勉めて我邦の風俗人情習慣を推究參考し流麗簡潔易解の文詞を以て斯學の全般に亘り最も親切に講述せられたる遺著を今回更に現今斯界のオーソリチーたる醫學博士千葉稔次郎先生に乞ひ丁寧親切なる校閲の勞を自らせらるゝを得必要なる潤飾を施したるものなれば現時の程度に尤も適當なる產婆學たる事は千葉先生の卷首に題し賜へる序文によりても明かなる處にして挿入せる多數の圖畵も亦皆實際に適切ならざるものなく所謂言ふべく行ふべきの良著なれば產婆學講習者は勿論開業產婆、看護婦、醫學生竝に醫士諸君にとりても良好の伴侶たる事を信じて疑はざるなり

●發行所　東京市本郷區龍岡町三丁目（振替貯金口座四一八番　電話下谷一六七二番）　吐鳳堂書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

スミレ香水
平尾分店 東京濱町

□第六回夏季講習會　日本音樂協會（神田區錦町三ノ十一）にては來る八月一日より向二週間第六回夏季講習會を開設し、男女を問はず普く音樂科教員及該教員志望者並に東京音樂學校入學志望者其他一般音樂研究志望者の爲め、ピアノ、オルガン、ヴァイオリン等の講習會を催す由。

□同文館の百科辭書　書肆同文館にては兼て大日本百科辭書出版の計畫を立て、其第一册として編成したる商業大辭書は、目下社會に好評を博しつゝあるが、引續き今年秋期には醫學大辭書及教育大辭書を發行すべく、なほ今度工業大辭書出版の計畫を發表したり。吾人は斯の如き眞摯なる出版計畫の成功を衷心より祈るものなり。

□美顏術　早くより「ハイジエニック、フエーシアル、カルチユーア」（衛生美顏術）の元祖として、識られたる、京橋區竹川町十二番地、理容館にては、一面美顏術施術所として、銳意歐米各國の最良化粧品を輸入して、其紹介に勉めつゝあり、美顏術は色を白くし、ソバカス、ニキビ、皺、シミ、等を根治せしめ、或ひは之を未然に防ぐ外、白粉ののりを良くするのみならず、傷痕、火傷、痴石、等にも驚くべき効驗あり、美顏術を醫術の上より論ずるも、學理に適ひ、各專門大家の賞讚を博しつゝあり、輸入化粧品の重なる物は、ポンピアンマッサージクリーム、ライラック水（最良化粧水）高等白粉各種、クリームシヤボン、佛國製無鉛水おしろい、ブリアンテン香油、ラノリン香油、意匠トイレットボックス、フエスマスク（ゴム面）電氣マッチ（シガーライター）其他雜貨殊に同館に於て販賣せる、三宅島特產洗髮用、玉椿（拾個箱入貳拾錢一袋貳錢）は髮を黑くし艶を出し、而も其洗髮法の簡便なる他に比類なき逸品なり

□一萬八千圓大福引の盛況　京橋區銀座二丁目角美術工藝會社に於ては一万八千餘圓福引景品附第二回賣出なるが既に第一回に於て一般世人より其販賣品の精良と福引抽籤の公平とを確認せられたるを以て今回も非常の好評を博しつゝあり特に銀器、時計、置物、指環、滞留、袋物其他一般美術工藝品の外最新流行寶石入の半襟と何人にも取はづし自在なる半襟用寶石とを加へし爲め昨今階上階下の陳列所共顧客を以て埋むるの盛況を呈し居れるが右の福引景品は第一種一等十八金一貫目價格金五千圓の大大金盃を初め二千圓、千圓、六百圓のダイヤ入指環二百圓及百圓の寶石入及半襟金時計銀花瓶等以下一本もはづれなしと云ふ

腦病 精神病 神經病
東京府下〇龜戸町 かめゐど停車場ヨリ約十丁
加命堂腦病院
電話浪花二五五二
院長 奈良林淺次郎

子爵小笠原長生立案 佐藤正校閲 愛國婦人會編纂
奥村五百子詳傳
全一冊定價金五拾錢 郵稅金八錢 但東京市內は郵稅金四錢
懸賞論文當選書付 不思議な女徳論叢
全一冊定價金貳拾六錢 郵稅四錢
電話番町一七四五 振替貯金口座八五三番

大日本文明協會會員募集
會長伯爵大隈重信
評議員井上、石川、和田垣、嘉納、高田、坪内、上田、浮田、松井、元良の各博士
入會金 特別會員四圓。普通會員三圓
會費 一ヶ月特別三圓。普通二圓。
本會の目的 宇大の新知識に親炙せしめん爲。歐米最近の名著を和譯して五十卷三萬餘頁の大著述を出版す。
規則郵券二錢封入申込あれ
京橋區南鍋町一ノ二 大日本文明協會事務所

實用新案八八八六號 最新流行
寶石入半襟
定價一掛金二圓以上御好み次第

總額壹萬八千餘圓の大福引 最新流行優美高尚古今無比 寶石入半襟あり
時計。指輪。帯留。簪。銀器一切。紙入。煙草入。煙管其他美術工藝品は何でもあります
◎大金盃（十八金製正味一貫目 直徑一尺一升三合入 價格金五千圓 彫刻は御好み次第）を第一種第一等の景品と爲し其以下
一本も外れ無し
◎委細は規約書に掲げあり御申越次第無料にて進呈可仕候
製作濟の大景品は本社店前に陳列しあり御一覽被下度候
東京市京橋區銀座二丁目角 電話特長新橋四六七七 振替口座一三二八九
大日本美術工藝品株式會社
社長 伯爵 吉井幸藏
相談役 大谷嘉兵衛 淺野總一郎 中澤彥吉 大木宗保

外科 午後往診 夜間診療
本郷區元町一の十四（淨水地西南隅）
醫學士 三原新太郎

耳鼻咽喉病診療 入院應需
淺草區向柳原町一丁目二番地左衛門橋通り
中村醫院 電話下谷壹壹三〇番

小兒病診療 宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田慎太郎 電話下谷七一八番

院長醫學士 烏山南壽次郎
烏山内科院
午前診察 午後往診 京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

内科一般 午前宅診 午後往診
東京神田美土代町三丁目十九番地
板垣亨 電話本局貳千九百七十番

岩佐病院 日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）
診察時間 自午前九時 至正十二時
内科婦人科 院主 岩佐純
内科 院長ドクトル 岩佐新
（獨逸留學中）副院長醫學士 高田壽
外科 醫學士 山村正雄
産科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

衛生美顏術（金五十錢一回施術料）
家庭用美顏術化粧鞄販賣 定價八圓 拾貳圓 拾六圓以上各種
說明書は御申越次第進呈送料貳錢御附送の事
弁ニ直輸入高等化粧品各種
新輸入 夏期專用クリーム（大一圓五十錢 小參拾錢ヨリ一圓迄）
紳士用電氣マッチ（原名シガレットライター 定價壹圓）
新橋竹川町二番地 理容館本部
（電話新橋三八〇四番）

教育上に最も注意する最良少女雜誌 繪草紙
少女の友
◎六月一日發行◎ 第壹卷第五號
一冊拾錢郵稅壹錢 六冊郵稅共六拾錢 十二冊壹圓拾六錢
▲閑院宮妃殿下の御少女時代……跡見花蹊
◎口繪 ▲名家の少女▲跡見女學校の横濱遠足會▲盲生の合奏▲孤兒の遊戲▲屋上運動場
◎懸賞 繪さがし 歌つなぎ
上品で美麗で面白くて有益で最も評判の好い雜誌
◎六人連……星野水裏 ◎光ちやんの種蒔……峽水 ◎金ちやん螢……晶子 ◎生れぬ前（ゑとき）夢二 ◎家庭遊戲……桂子
◎木登り袋鼠……飯塚學士 ◎紅鶴の群……永代靜雄 ◎姉さんの百物語……小町 ◎夏ショール編方……春子 ◎孤兒院の少女……東草水
◎孝女永井……渡邊白水 ◎墓掘り返せ……湘雨 ◎木下闇……瀧澤素水 ◎底無し沼……須磨子 ◎わらひばなし
家庭教育 繪ばなし
面白くて教育的な事天下一品 大々好評
六月五日發行◎五卷第六號 一冊六錢郵稅五厘 六冊共卅六錢 一年七拾貳錢 郵稅共卅八錢
▲お伽噺▲螢狩▲果物▲遊戲▲歷史かたる▲ローマ字稽古
東京京橋區南紺屋町 實業之日本社 振替貯金三二六番 全國賣捌書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

洗用ワツセル

◎此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◎用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは(拾貳号)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶し拭してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具の解き掃除にも有効です

定價 拾貳号入 金拾五錢 六号入 金八錢 袋入二錢

英國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
三友商會

夏半ゑり帶揚 優美高尚 眞珠寶石入
實用新案特許第八八八六號 寶石眞珠 販賣
別染中形浴衣地 絽縮 鶉縮 紅梅織縮
眞岡 夏ショール 片側帶 單帶 丸帶 兵兒帶
地 裾模樣付出し 夏長襦袢 同袖地 ネクタイ
博多伊達卷 ゑり治形 すゞめ形 まげ入御

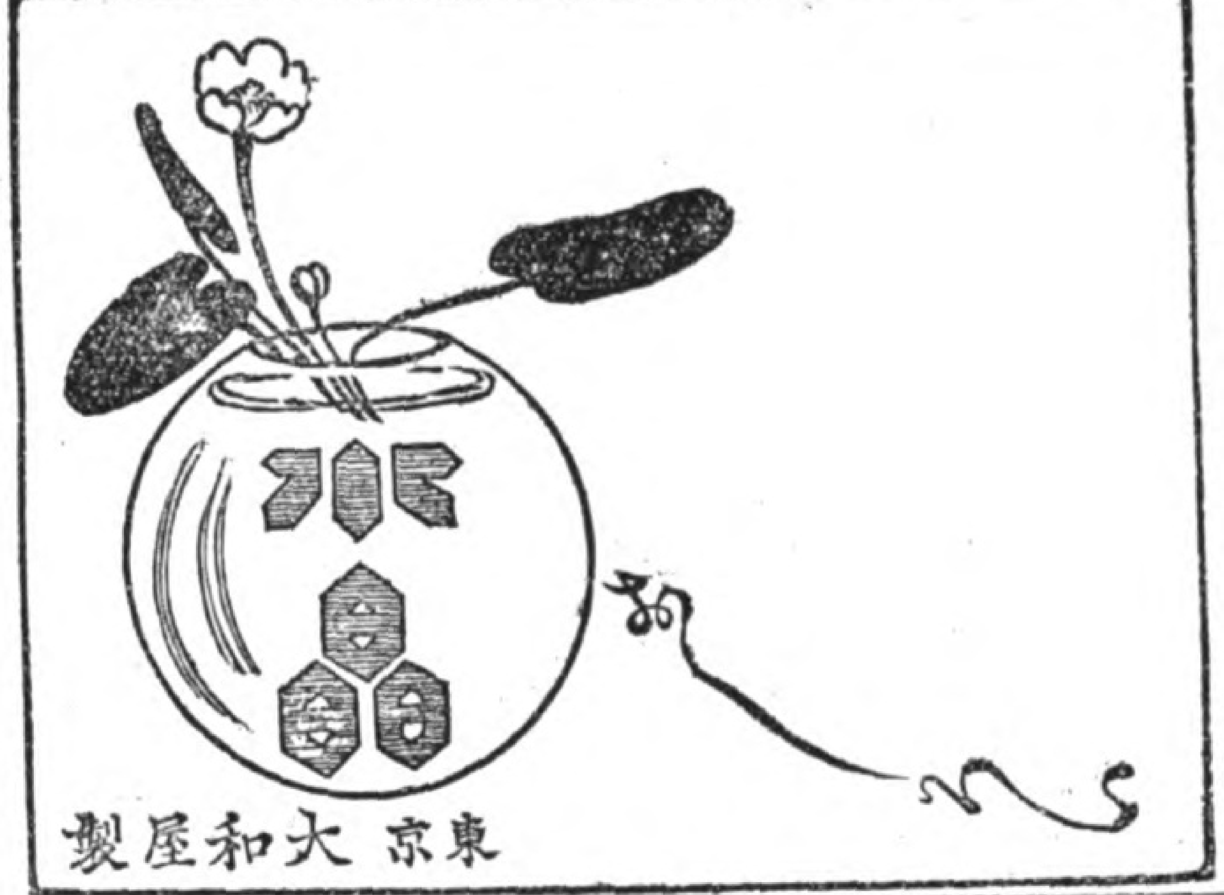
○商品切手御進物用箱入調製あり
新橋竹川町十貳 電新二〇二七 本店 ゑり治
振替貯金口座第四四〇壹番
神田表神保町壹 電本局九五二 支店 ゑり治
新橋際博品館内 出店 ゑり治

商品切手調進仕候
本店 神田區小川町 電話本局四八九 振替貯金口座一五〇〇〇
支店 京橋區銀座 電話新橋八三三

六月一日より
中形浴衣地新柄陳列會
尙豫て懸賞を以て募集致候中形圖案の内優等の分を浴衣地に染上げ陳列仕り候

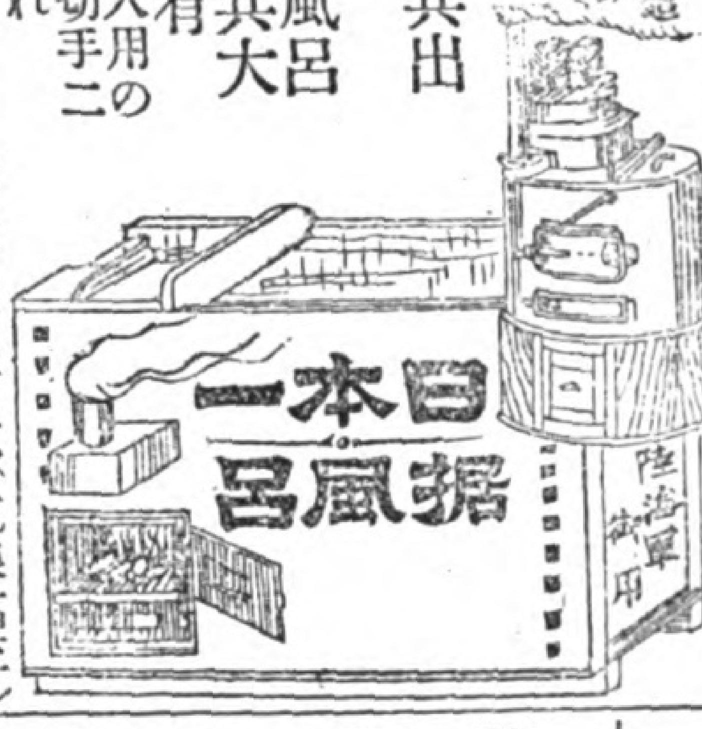
流行の夏物及び雜貨類共一切取揃へ陳列致置候間御遊覽被成下候樣伏して奉願上候

三越呉服店

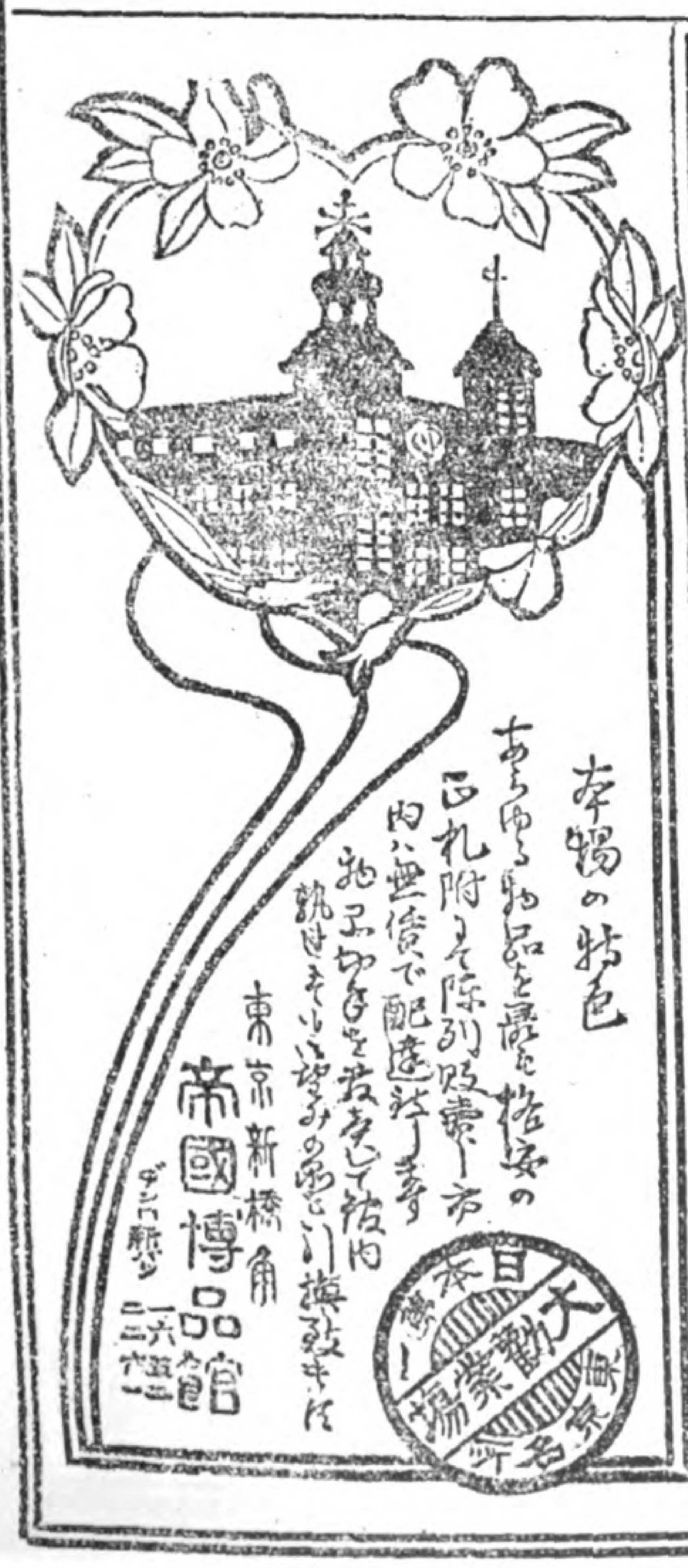


○院長ドクトル 木村順吉
京橋卅間堀一丁目角(電話新橋二六七〇番)
婦人科產科 木村病院

腦病脊髓病
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇
神經痛運動障礙等
午前 自宅 神田多町壹ノ八
午後 岩佐病院 日本橋區蠣殼町
醫學博士 土田卯三郎 (電本三〇五八)

銅製改良風呂及湯屋用釜各大小共出來有
檜製据風呂桶風呂共大小出來有
定價表御入用の方は郵便切手二錢封入あれ


東京市日本橋區通油町一九(電浪一四六二)
銅製竈販賣元 石川商店
東京市日本橋區濱町二丁目十一番地
据風呂製造陳列所 石川工場



最上醤油
キハク印
於聖路易博覽會 名譽大賞牌受領

キハク印醤油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

醸造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門
信號標(キハク)又(ハク)
東京支店 日本橋區小網町三丁目 電話浪花五七七四 中野長兵衛

神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長ドクトルメヂチーネ 峰秀世
峰內科醫院

產科婦人科專門
診察每日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八
岩田病院

明治四十一年六月廿日發行(每月五日廿日二回)
(定價金三錢五厘一ケ月七錢郵税不要)(廣告料一行金六拾錢)
編輯兼發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 永持德一
發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所
發賣所 同 京橋區南鍋町 株式會社隆文館
印刷所 東京牛込區市ケ谷加賀町 秀英舍工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會記事

□評議員會 本月五日午後一時より開會左の件を議せり

本會々費醵金配當步合改正の件

右原案の通り可決し終りて理事監事の選擧を行ひ、別項の如く當選せり。又參事會員の改選投票を爲す。當選者左の如し。

東郷鐵子　濱尾作子　鳩山春子
山脇房子　高木龍子　關邦子
三輪田眞佐子　有馬幸子　仁杉歌子
松平須磨子

當日の出席者は毛利、岡部の兩理事及二十餘名なりき。

□總裁殿下 本月九日午後九時新橋驛着列車にて山口支部より御歸京あらせられたり。當夜奉迎せる職員は 島津、毛利兩理事代三井監事代板垣、丹羽、松平(須賀)有地、關、早川、新山、大谷、渡邊、高木(豐)、松浦、有島、佐藤(龍)、三井(五十)、仁杉、中山代等の各評議員及東京支部幹事十餘名なりき。

□評議員の改選 本會評議員の任期滿了に付、第七回總會に於て全部を改選したる結果、其當選者左記の通りにして、五月二十六日附を以て 總裁殿下より夫々御囑托あらせられたり。

公爵夫人 岩倉久子　同 一條悅子　同 二條治子
同 德川泰子　同 大山捨松　同 九條惠子
公爵母堂 近衞貞子　公爵夫人 島津田鶴子
公爵母堂 毛利安子　侯爵夫人 池田亨子
侯爵夫人 細川幸子　同 德川久子　同 伊達幸子
同 鍋島榮子　同 野津トメ子　同 黑田清子
同 佐竹靜子　伯爵夫人 板垣絹子
前伯爵夫人 井伊常子　伯爵夫人 伊東美津子
同 德川知子　同 戶田極子　同 東郷鐵子
同 小笠原貞子　同 大隈綾子　同 樺山登代子
同 黑川須磨子　同 黑木百子
伯爵母堂 兒玉マツ子　伯爵夫人 岡部篤子
伯爵夫人 佐々木貞子　前伯爵世嗣夫人 佐々木行子
子爵夫人 井上光子　前子爵夫人 岩倉枝子
子爵夫人 井伊智子　同 花房千鶴子　同 長谷川辰子
同 西美喜子　前子爵夫人 丹羽花子
子爵夫人 細川同子　同 本莊季子　同 戶田時子
同 岡部坻子　同 小笠原秀子　同 川村清子
同 谷玖彌子　同 鍋島輝子
前子爵夫人 鍋島易子　同 山地藤子
子爵夫人 松平雅子　同 松平八百子　同 寺內瀧子
同 佐竹鐵子　同 清浦錬子
男爵夫人 伊集院繁子　同 原口セキ子　同 波多野露子
同 濱尾作子　同 澁田岩子
同 尾崎八重子　同 大藏松子　同 片岡メマ子
同 高木富子　同 堤常子　同 宇佐川稚子
同 松平須磨子　男爵母堂 松平擧子
男爵夫人 鍋島良子　同 有地拾子　同 有馬壽子
同 佐藤靜子　同 坂井春子　同 三井壺子
同 澁澤鉄子　同 千家俊子　同 關郁子
伊澤千世子　岩佐千賀子　鳩山春子
原龍子　早川里子　仁尾繁子
新山雅樂子　關光子　豐島文子
大谷カチ子　尾崎英子　大迫藤子
大久保榮子　渡邊イネ子　片山龜子
高木豐子　堀橋初子　高橋壽々子
津田梅子　長岡芳子　中山幸子
長井トシ子　中井カネ子　富田セイ子
茨谷ヨシ子　山脇房子　柳谷千代子
山本タネ子　安田房子　松浦鳥子
松崎悅子　藤井トク子　古市幸子
近藤從子　江木中子　郷濱子
跡見花蹊　有島幸子　佐藤龜子
佐方鎮子　澤ヨシ子　佐々木芳子
菊池成子　三輪田眞佐子　三井照子
三井五十子　三井壽天子　三井榮子
水野満壽子　下田歌子　澁谷知和子
島田信子　弘田増子　仁杉歌子
森村菊子

□職員の改選 本會定款第十九條に依り會長、副會長、理事、監事の選擧を行ひし結果、其當選者左の通りにして、六月十日總裁殿下より夫々御囑托あらせられたり。

會長 公爵夫人 岩倉久子
副會長 公爵夫人 一條悅子
理事 公爵夫人 德川泰子　公爵夫人 大山捨松
公爵母堂 近衞貞子　公爵夫人 島津田鶴子
公爵母堂 毛利安子　侯爵夫人 鍋島榮子
子爵夫人 岡部坻子　子爵夫人 谷玖彌子
監事 公爵夫人 九條惠子　男爵夫人 三井壽子

□評議員會 本月の評議員會は來廿四日（第四水曜日）に開催す

山口總會

□本年曠空前 の完全せる設備と盛況とを以て山口支部第一回總會は本月五日山口縣廳內廣場に於て擧行せられたり。此日の式場は善美を盡し壯嚴を極め且天候快晴にして出席者は來賓三百名癈兵及軍人遺族約千名會員約二千名の多きに及ぶ

□總裁殿下 岩倉會長、千家山脇兩評議員及隨員一同は當日に先立こつと三日即本月二日新橋を發し神戶廣島へ各一泊四日午後五時三十分山口へ到着せるが支部員初め地方官民には毛利家より周到なる注意ありしにや非常の熱誠を以て上下擧て殿下を迎へ奉りしは感激の外なかりし

□第一回總會 は當日午前十時を以て擧行、總裁殿下以下岩倉會長、千家山脇兩評議員、毛利公爵夫人、同男爵夫人各席定まるや渡邊山口支部長恭しく職員名簿及會員表を捧呈、開會の挨拶あり渡邊顧問支部長に代り明治三十七八年戰役に關し本會に賜りし 皇后陛下御令旨を奉讀

□總裁殿下 には左の御諭旨を朗讀あらせらる。

玆に山口支部第一回總會に臨み諸氏と相見るは最も欣喜する所なり

顧ふに當支部の會運たる日に月に隆昌の域に赴き事業の成績見るべきもの多しとす是れ全く諸氏熱誠の致す所にして將來の進步亦知るべきなり然れども事業の完成を期するは容易の事にあらず諸氏夫れ幸に益々奮て本會の目的を達せんことを努めよ

□渡邊支部長 は左の如く奉答せり

愛國婦人會山口支部第一回總會を開くに方り畏くも

總裁殿下の臺臨を仰ぎ優渥なる御諭旨を賜ふ何の光榮か之に加へむ自今一層奮勵し會員と共に益々事業の擴張を圖り以て盛旨に副ひ奉らむことを期す謹みて奉答す

愛國婦人會山口支部長 渡邊るい子

□岩倉會長 は次の祝詞を朗せらる。

山口支部愛國婦人會の姉妹方は夙に赤誠を抽て熱心以て會務の發展を努められし結果會員の數全國を通じ最も優等の位置を占め事業の成績亦大に顯著なるものあるを見る而して本日玆に第一回總會の式を擧ぐるに至りしは久子の最も喜ぶ所なり

惟ふに外敵を挫き國家を護るは陸海軍人の職分にして之がため身を君國のために致したる遺族癈兵の救護は實に全國同胞姉妹の熱誠贊同せらるゝ所なりと信ず

今や我が東洋は平和の氣象然たりと雖も救護事業の緊要は事實却て戰時に勝るものあらんとす冀くは來會の姉妹方よ自今益々奮て會旨を擴張し一は救護の實蹟をして遺憾なからしめんことを期し一は

總裁殿下の溫厚なる會旨に副ひ奉られんことを聊か所思を述べて祝詞に代ふ

愛國婦人會長公爵夫人 岩倉久子

□會員總代答辭 として左の如く朗讀す

本日愛國婦人會山口支部總會を開かるに方り畏くも

總裁殿下の御臺臨を辱ふし優渥なる御諭旨を拜することを得たるは洵に此上なき光榮にして歡喜に堪へざる所なり抑も本會は婦人として愛國の衷情を表し國恩の萬一に報ひ奉らんことを期して設立したるものにして創始以來會運年に隆昌に赴き彼の二十七八年及三十七八年戰役等に於る忠死軍人の遺族癈兵の救護に關し微力を盡すことを得たるものは偏に

總裁殿下會務御統率の宜しきを得たる結果にして一同の感激する所なり今より益奮ひ勵みて會運の發展を圖り以て本會の目的を遂し御諭旨に副ひ奉らんことを期す玆に謹みて一言陳べ祝辭とす

愛國婦人會山口支部會員總代 吉田すま

□來賓總代 より次に左の祝詞あり

愛國婦人會山口支部は本日を以て

總裁殿下臺臨の下に第一回總會を開催せられ邦彥等亦此名譽ある會場の席末に列するの光榮を有せしめられたるは偏に感謝の至りに堪へず

抑も愛國婦人會は國家慈善事業の最大なるもの又賢母淑女の據て以て忠君愛國の基礎を鞏固ならしむべき處の集結なり

總裁殿下の此阪邑に臺臨あらせらる又故なきにあらざるべし

由來防長士民の君國に忠なる歷史の證する處にして本縣會員の比各府縣に冠たる蓋し偶然にあらず然りと雖も時運の趨勢は斯道の發展を望むに切なれば會員諸君は本日の 御諭旨を奉戴せられ益々自重奮勵其目的を遂行せらるゝことは信じて疑はざる所なり玆に來賓一同を代表し謹て

殿下の御健康を祝し奉り併て本會の隆盛を祈る

陸軍少將正五位勳二等功三級 村山邦彥

□有功章御親授 引續き 總裁殿下には左の諸氏に有功章を親授せらる

一等有功章（一人）福田タケ

二等有功章（三十一人）吉川直、時政ミヤ、秋山エイ、良永ミチヨ、梅田ツキ、八木シゲ、植木ウサ、吉高千代、田中タミ、上田ミチ、古林スミ、中村ソノ、三隅シモ、紀藤マキ、毛利保、中野ムツ、植田ヘマ、山田桃作、瀧口房、楫取美和、毛利瘧、河野ヘル、野村アサ、岩崎歌、林リヤウ、兒秀、道源梅、勝間田ヨネ、上原チヨ、福田富、近藤フチ

三等有功章（百五十三人）藤勝トモ、矢田部千代、藤山ツル、品川スミ、村上トラ、菊元コト、佐川シゲ、佐川ツカ、小田マシエ、小田カメ、神田エミ、神田安、小田峰太郎、池本辰祐、栗弘イヨ、田中ミチ、鬼武ミチ、吉永マキ、宇野タチ、二月辰、山本キン、布浦スミ、水田キヌ、吉田タメ、小泉アイ、新明ユキ、弘津フサ、小野本ヒサ、河內キイ、良安アイ、坂田サト、國光マス、三輪幾、坂本フミ、吉松クニ、若山マス、吉松ヒサ、大田モト、水田ヤス、福田末郎、林茂登、林チカヨ、宇田多リヨウ、中光トヨ、尾中ヤス、時政ムメ、加藤ミネ、山根セツ、坂上節、池田恒、河野アテ、萬代イネ、吉見キヨ、河北クリ、木村キヨ、奥平タキ、吉富ユキ、來栖マキ、福田ツナ、藤井フサ、田中キチ、小林ヨネ、龜田フクヨ、山尾タケ、國司リコ、末繁ミツ、龜田ユモ、末廣和喜、野村マツ、北村富美、林マツ、藤本キチ、平井タケ、感巫ツタ、三隅ミサ、渡邊クミ、林モノ、毛利國、楨田アツ、植田タカ、植田ムメ、河村コウ、河野ハナ、河野キクノ、富田カツ、雄賀セツ、松井キク、大橋テル、中野ミチ、中尾フサ、河田ツチ、河田マサ、磯部ヨシ、兒林イコ、下田エイ、久富トミ、竹中響路、岩本タカ、森永奥女、村田ウタ、藤井コマ、池田イト、河崎ショウ、田邊タツ、中島クウ、谷ヨシ、阿武良、中本マチ、久保新太、松永雅三、奥野市太郎、中野秀次郎、白井ミチ、岡ムツ、小田コト、小河コウ、菊屋安、菊屋カメ、菊屋ヨシ、大岡富、篠島房、三須コウ、國光マキ、岡本タツ、土屋キク、部坂信、麻生美代、小林ミヨシ、小河ヒサ、西村タネ、鈴木ヨシ、藤山キク、吉岡マツノ、吉岡ミチ、實部トク、桝谷磯、小方千代、松金マサ、石田シス、波多野ノブ、林テツ、細ツキ、細リツ、河野マツ、村井ノブ、國弘キサ、澁谷ヘル、田原ヒデ、藤田チヨ、中川千代、安部イチ、桑響

□癈兵及び遺族 右終りて後癈兵及び遺族に對し岩倉會長は總裁殿下の旨を受け懇篤なる慰問の辭を述べ各箇に特別賜金を贈られしに一同感涙に咽び欷歔の聲を漏せるものあるをも見受けたり。斯くして此の第一回總會の完全無比に無事結了せるは十一時四十分なりき。

尙ほ山口支部員諸氏、毛利家の一方ならざる盡力と厚意とに對して述ぶべきもの多々あれど餘白なければ一言爰に感謝の辭を述ぶるに止め尙ほ同支部の今後に於ける一層の大發展を祈り措くもの也。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支部の状況

▽東京支部近況△

□**授産場の狀況**　去る卅七八年戰役の際始めて授産場を牛ヶ淵なる當支部內に開き、戰死準戰死者遺族並に癈兵及同家族の爲に、生業を授くるの設備をなし、陸軍被服廠より交付の襦袢袴下の裁縫をなし來りしが、その成績極めて良好なるを以て漸次擴張、客年四月よりは黑、白、キャラコ等各種の足袋の製作を始め涎掛、西洋前掛、胸掛等の裁縫をもなしつゝ傍ら從來の襦袢袴下にも就業しつゝあり。現在授産場は牛ヶ淵及赤阪(新坂町六十九)本所(花町二五)の三個所にありて、一ヶ月の足袋製出高は約二千足即ち一人一日平均五足を仕上ぐべく尙一二年後には十足に達すべき豫想狀態にあり。之が販路は主として目下本會職員の間に存すれども猶一般の人々よりの購買申込も尠からず。而して材料は吟味精選且普通商店よりは一割乃至二割の低價なり。

茲に通勤する遺族及癈兵家族にして授産場より約二十町以外に住居し、定刻時間に出頭するものに對しては、日々の電車賃を支給し襦袢袴下及足袋裁縫工賃は熟練と勉强とによりて、一日金三十錢乃至四十錢を得ること敢て難からず、新に從事するものにありては、袴下襦袢の練習中二十日間は工賃の外に一日金五錢、足袋裁縫にありては練習中三十日間は金十錢の增賃を給すべく、其他奬勵の爲め規定工料の外、襦袢袴下一着につき金一錢五厘の割合、足袋裁縫は出來工料金額の二割を每月末賞與する等の規定あるを以て、現在就業者中の最高者は一ヶ月金拾圓の所得あり最低者と雖も四五圓を降らざるの好況を呈しつゝあり、猶ほ去五月廿三日擧行の本會第七回總會に際しては畏くも　國母陛下の天覽を忝うし、純白絹天の足袋等御買上の榮を賜りたり。陛下が御仁慈のほどは申すも畏し、本會の趣旨たる遺族及癈兵の救護事業に贊同援助せらるゝ諸氏は、また必ず當授産場の事業に對しても、多大の援助あらん事を望む、因に記す目下販賣部は牛淵なる本會本部構內に設けあれば、多少に係らず隨時購求に應ずるを得べく、地方在住の諸氏は振替貯金口座一五一一四號を以て金圓拂込の上、東京支部授産場販賣部宛にて注文あらんことを望む。

▽宮城支部近況△

□**癈兵院慰問**　本部總會へ出席の爲上京せし龜井支部長は、總會閉會後卒先して癈兵院を慰問し各室每に親しく在院癈兵を慰藉し袋入せんべいを各自に贈り、猶本部遊說員野中彌知子氏が宮城支部遊說の際、常に癈兵院のことを說きたる爲に、集りたる金若干圓を寄附したるに、在院者一同の歡喜一方ならざりしとぞ。

▽熊本支部近況△

□**熊本支部幹事の癈兵院慰問**　本部總會出席の爲め上京中なりし、熊本支部幹事岡田豐子、山本琴子、岡村とく子氏等は、事務員と共に客月二十五日午後澁谷なる東京癈兵院を訪ひ、院長の案內に依り、各室に就き、親しくこれを慰問し、見舞品代として金若干圓を贈與せられたりと、而して岡村幹事は居村及隣村の遺族癈兵諸氏に土產として、同院の製作に係る湯呑の拂下を受けたりと。

▽香川支部近況△（其一）

□**役員會の議決**　香川支部は、客月九日を以て役員會を栗林公園內掬月亭に開き、左記の事項を問題とし、滿場一致を以て之を可決若くは承認せり、尙當日は小野田支部顧問よりも會員募集に關する演說ありたり、今參考の爲め其の演說の概要を左に附記す

香川支部協議事項

一　募集豫定人員に不足の會員は來る六月末日迄に增募する事
一　未納會費は前項期日迄に納付せしむる事

同　報告事項

一　四十年度會費及支部經費收支決算報告の件
一　各資金現在高報告の件
一　四十一年度會費及支部經費收支豫算承認の件
一　軍人遺族及癈兵援護金支出及人員報告の件

同　打合事項

一　收入會費納付に關する件
一　會員轉住受籍に關する件
一　門標に關する件

香川支部顧問の演說

私は當支部顧問の資格にて一言申上げたいと存じます、御相談致すべき事柄は、既に片岡主事より詳細申述べてありますから、最早一つ事を繰返すの必要もありませぬが、今日御相談の事柄並に御報告申上る內、一つのみ聊か申上げたいと存じます、夫れは外の事でもありませぬ、乃ち十年計畫たる資金增殖に關する事であります、此の十年計畫の詳細は、別紙の通りにて、只今片岡主事より申述べた通りでありますから、尙よく〳〵御覽を願ひます、尙ほ之れに就て御參考の爲め、明治三十五年當支部創設以來明治四十年に至る經濟の狀況を申上げますれば、收入は四萬二千四十九圓三十八錢五厘でありまして、支出は二萬七千七百五十圓二厘であります、右十年の計畫を立てますに付きましては、片岡主事には非常なる苦心を致しまして、本會の趣旨たる半襟一掛の費を節約して、曾つて會員となられ、所謂數島婦人たるの本分を全ふせられたる御篤志に酬ひんとして、無益の費用を省き、去る明治三十五年以來滿六ヶ年が其間、長きにあらざるも、皆樣御承知の大戰爭もあり、此戰役中には、皆々樣には目覺しき活動もなされ、又戰後には遺族癈兵救護の方法を設け實施したるは、當支部事業の目的稍々相立ちて、今日となりましては、他地方に於きましても、範を當支部に取り、夫々方法を立つる趣にて、先覺者たるの名譽を擔ひまするのは誠に御同慶に存ず處でありまして、是れ偏に皆々樣御熱心の結果に外ならざる次第と存じます、併しながら始あつて終なきが如き事がありましては、相成りませんから、前にも申上げました通り確實なる基金方法を設け、一般より賞贊を受けたる事業を永遠に持續せんとするの精神を以て、先般地方官會議として上京の節十年計畫の事を本部へ報告し、併せて本部の評議員中重なる方々へ配布致したるに、非常なる御賞贊を得たる次第であります、何卒先般來御相談申上げました會員不足の幹事部に於きましては、豫定の如く募集を爲し、我愛國婦人會香川支部の事業を全ふせられむことを、呉々も御賴み申す次第であります、此の御盡力に依りまして、來る明治五十年に至りまして、十萬圓の資金を有することになりますのは、讃岐御婦人方の事業として、他に對し決して遜色なき事と存じます。

▽臺灣支部近況△

□**臺灣支部上流婦人の寫眞に就て**　本會臺灣支部より其の上流社會に於ける婦人の寫眞を送り越されたるに就て、左の一文あり揭げて以て本紙上に揭載せる寫影の參照とす

本島人會員募集の一端として去る三月中當支部所屬澤坑幹事部顧問同廳長丹野英淸氏管內巡視の際本島人會員の一部にして同氏の勞を犒ふ爲め出迎を爲し共に撮影したる別紙寫眞貳葉爲御參考迄御送付候條御查收相成度候元來本島上流婦人は常に外出を厭ひ加之內地人に接するが如きことは稀有の事にして殊に往時よりの風習として總て纏足を施し尙且其當時降雨に際し步行困難なるにも係らず如此美擧は關係吏員等の指導宜敷に因りしものと被存候へ共要するに本會の主旨を贊同し會員たることを自覺したるものと被認候間此際豫而御發行中に係る機關新聞に揭載御紹介の勞を得ば將來會務擴張の一助とも可相成歟と被存候間此段得貴意候也

明治四十一年五月十五日

愛國婦人會臺灣支部

愛國婦人會御中

追て別紙寫眞中前列中央に制服を着けたるは澤坑廳長(顧問)丹野英淸氏に付爲念申添候也

▽香川支部近況△（其二）

綾歌郡羽床愛國婦人會第一回總會は豫記の如く去る三日午後四時より同尋常小學校に於て擧行せしが來賓は縣支部より濱出高松地方裁判所長夫人、森田同檢事正夫人、松本事務員又郡幹事部よりは瀨高顧問、眞銀小坂兩事務員其他宮武委員にして先づ宮武委員は開會を告げ總裁宮殿下の御眞影を奉開し君か代の奏歌、（一同起立）宮武委員令旨奉讀、各自參拜事務の報告ありて宮武氏は御眞影を閉扉し濱田評議員は小野田支部長の告辭代讀、眞鍋事務員は幹事部長の祝辭代讀、瀨高顧問は赤十字社と愛國婦人會との關係を演說し次て會員總代片山シゲ子の祝辭、幹事宮武花子の答辭ありて式を終りたるは午後六時頃にて會員には茶菓子の饗應をなし又來賓には宮武委員邸に招待して小宴を開きたるが同日は朝來數十發の煙火を打揚げ非常の盛況なりき

▽和歌山支部近況△

□**會員增募協議**　愛國婦人會和歌山支會市幹部にては來る十月當市物產共進會開催を機とし幹部總會を開催の計劃あり、去る四日夜も加藤幹部長の宅に幹事會を開きて總會開會に關する打合及び會員增募につき協議をなしたるが、同幹部の五月末現在會員は

有功章三、特別一八六、通常七八〇
合計九六九、贊助員七五

にして內同月中特別會員より有功章佩授者となりしもの一名、特別通常に新入會したるもの十餘名あり又年金皆納者は特別四十四名通常四十三名合計八十六名にして、全會員を市內婦人數に比較すれば二十五人に對する一人半强となる由なるが今秋迄には大に增募をなす由

▽秋田支部近況△

□**癈兵の製作品**（御買上）　去月二十三日愛國婦人會第七回總會に際し　皇后陛下の叡覽に供する爲め各支部授產場の製作品を陸軍大學校樓上內に陳列せるに鹿角郡幹事部內遺族癈兵の製作に係る木通蔓細工品榮形テーランは　皇后陛下御買上の榮を荷ひ又　總裁閑院宮妃殿下にも椅子御買上相成たる由にして各製作者は勿論當局者は大に感激し居れり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第百五十五號附錄

愛國婦人會各支部職員小肖

帝國圖書館 IMPERIAL LIBRARY

明治四十一年六月二十日（毎月二回五日廿日）發行
明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

佩一等有功章岩手
支部長笠井芳子

佩一等有功章山形支部
幹事部長山宮花子

佩三等有功章群馬支部
幹事田中京子

佩三等有功章群馬支部
幹事藤波みな子

臺中支部
幹事岡ゆき子

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人永持德一　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN